

平成30年度

事業報告

社会福祉法人 長い坂の会

I はじめに

I はじめに

- 1 法人総括 3

II 高齢者福祉事業

[1] やすらぎの家 関連事業

- 1 特別養護老人ホームやすらぎの家 5
- 2 短期入所生活介護やすらぎの家 22
- 3 グループホームほのぼのの家 23

[2] うららか春陽荘 関連事業

- 1 特別養護老人ホームうららか春陽荘 ... 24
- 2 在宅事業部門26
 - (1)居宅介護支援事業所はるの 26
 - (2)デイサービスセンターはるかぜ 26
 - (3)デイサービスセンターそよかぜ 26
 - (4) 短期入所生活介護うららか春陽荘..... 27
(ショートステイ)
 - (5) 高齢者住宅等安心確保事業 27
(横浜ニュータウン)
 - (6) うららかキッズガーデン 27
(事業所内小規模保育施設)
- 3 春陽荘各種委員会報告.....28
- 4 研修参加状況.....30

[3] 在宅介護センターわかくさ 関連事業

- 1 デイサービスセンターくつろぎの家39
- 2 デイサービスセンターわかくさの家 41
- 3 小規模多機能型居宅介護 わかくさ 43
- 4 くつろぎの家 訪問入浴サービス46
- 5 高知市在宅介護支援センター あさくら.....46
- 6 高知市西部地域高齢者支援センター
あさくら出張所49
- 7 生活援助員派遣事業（若草）51
- 8 総務部門 51

III 児童福祉事業

[1] うららか保育園 関連事業

- 1 うららか保育園 51
- 2 特別保育事業 53

IV 公益事業

- 1 平成福祉専門学校 60

V 法人各種部門会活動報告

- 1 総務経営部門会..... 64
- 2 広報部門会64
- 3 研修部門会65
- 4 給食部門会65
- 5 危機管理部門会65
- 6 保健衛生部門会65

1 法人総括

(1) 平成30年度 理事会、評議員会、監事監査、開催状況

①理事会 定数 7名

開催年月日	出席者数	決議事項
第198回 H30.6.8	6名	- 平成29年度の事業報告及び決算報告並びにそれらの附属明細書の承認について - 監事 監査報告 - 諸規程の一部改正について - 平成30年度定時評議員会への審議事項等の決議について
第199回 H30.12.7	5名	法人 人事について
第200回 H30.12.20	6名	- 法人 人事について - 平成30年度第1回補正予算について - 諸規程の制定及び一部改正について
第201回 H30.3.29	7名	- 定款及び諸規程の一部改正について - 平成30年度第2回補正予算について - 平成31年度事業計画について - 平成31年度当初予算について - 法人 人事について - やすらぎの家修繕積立取崩金について

②評議員会 定数 9名

開催年月日	出席者数	決議事項
第89回 H30.6.22	8名	- 平成29年度収支決算書について - 監事 監査報告 - 行政監査報告について

③監事監査

開催年月日	監査者	指導事項
R1.5.28	中村文雄 梅田昭彦	- 事業報告等の監査結果 - 一 事業報告等は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。 - 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

		・ 計算関係書類及び財産目録の監査結果 計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に示しているものと認めます。
--	--	--

(2) 法人総括

平成 30 年度は平成最後の事業報告となる。平成の 30 年間を振り返ると、福祉 8 法改正に始まり、介護保険制度の創設、社会福祉基礎構造改革、子ども・子育て支援新制度創設など、社会福祉制度が大きく変化すると共に福祉サービスが進み、利用者主体の制度へと移行された。こうした制度に支えられ、社会福祉法人は事業運営に取り組んできた。

長い坂の会においても、平成 30 年度事業計画の方針・目標にそって、課題はあるもののご利用者サービスや職員の資質向上、人材確保・育成、災害対策、地域福祉活動など効率かつ円滑な運営・経営の安定に努めた。

高齢者福祉事業については、各事業所でのサービス向上を目的とした経営運営会議での検討・課題分析の中で稼働率向上を意識した取組や改善を目指し、ユニット型、従来型の入所施設においては、目標の 95%達成までに近づくことができ、前年度よりも安定した稼働ができた。在宅サービスについては、非常に厳しい状況下において、季節的な実績の変動もふまえ若干の稼働率減はあるものの、年間を通してみると事業成果の努力は感じられた。特にデイサービスわかくさの家においては努力の結果が顕著であった。

児童福祉事業については、職員の処遇改善加算をはじめ、それに伴う職員の研修体制の強化にも努めた。当初は研修体制の整備から始まり、役割や研修参加に戸惑いながら、結果的には充実した研修結果へと繋がった。特に役割分担などでは専門的な研修に参加することで、意欲向上、日常業務への活用も有意義であったとの声もあった。入園児も安定しており、特に病後児保育や一時保育は、普段とは違う保育園での対応や保護者の都合も解消され利用も多かった。仲良し保育では、保護者同士の交流の場となり入園への判断のきっかけとなった。このような取り組みが地域のみならず、遠方からの入園希望にもつながった。

公益事業については、介護福祉士養成校の入学者激減など、介護業界への敬遠が社会的な問題となっている現状のなか、当介護福祉士養成校の入学者は、入学定員充足率 70%ではあるが、職員の努力もあり評価できたものとする。また、介護福祉士国家試験全員合格を目指し、国家試験対策にも取り組んだ。今後も学生募集は厳しい状況下であり、今後も介護の魅力や当校の特色などの発信に努める。

Ⅱ 高齢者福祉事業

〔１〕 やすらぎの家 関連事業

総 括

今期の事業計画に基づき、反省や課題はあるものの、やすらぎの家・ショートステイ・ほのぼのの家のご利用者及びご家族との関わりを大切にし、安心・安全な環境づくりを心掛け、日常生活の支援・サービスの向上に努めた。また、各委員会や職員研修においても目的を持って取組み、資質向上に努めた。

感染症対策については、さくらグループにて発症したインフルエンザも感染マニュアルに沿い、職員の協力連携など早期対応で他グループへの感染拡大には至らなかった。

リスクマネジメントにおいて、転倒・立位・排泄介助時などの骨折が発症し、介護事故検討会にてリスク管理対応の不十分さの反省点など、事故の検証、介護技術の見直し、介護の統一化の周知徹底などを行い再発防止に努めた。また、昨年度においては誤薬ゼロだったが、今期、誤薬が発生したことについては、事故防止委員会にて全職員に伝達研修・内部研修、服薬マニュアル遵守の意識付けなど、再度周知・徹底に努めた。

入所稼働率については、年間入院日数が 2,000 日を超え、年間平均 94.71%、ショートステイは、2 月の感染症の影響もあり、1 日平均利用者数 10.2 人・年間平均 92.49%であったが、両事業とも過去 3 年間では一番成果が上がった結果となった。

昨年度に引き続き、平成 30 年度の高知県介護福祉機器等導入支援事業において、電動ベッド一式、車椅子、その他ボードなどを補助金にて導入することができ、補助の目的に沿い活用することできた。

施設整備については、設備の老朽化が進む中、照明器具の改修工事、古い仕様で長年不便な状態であったトイレ洗面所の改修工事やフローリング工事など修繕補修が急務となった。

継続的に取り組んでいる防災対策については、災害対策訓練「災害ワーキング」を平成福祉専門学校の学園祭と同時開催し、多くの地域の方々や大学生にも参加をいただき、災害時簡易調理法「パッククッキング」などを実施した。その他、防災訓練を中心に、災害発生時の通報・衛星電話連絡体制などの強化と、防犯カメラの設置や防犯机上訓練なども実施し、不審者などへの対応にも努めた。迅速かつ的確に対応できるよう、危機管理委員・防災委員が中心となり、全職員の防災意識・行動力向上に努めた。また、平成 30 年度高知県社会福祉施設等地震防災対策推進事業において、やすらぎの家では非常用階段避難車他、ほのぼのの家では自家発電装置を補助金にて導入することができた。

これまでの実績を大切にし、より良い施設運営の実現に向け、安心と信頼を支える良質なサービスの充実、新たな人材育成など、今後の課題に向けて職員一丸となり、地域福祉の拠点となる施設機能強化に努める。

1 特別養護老人ホーム やすらぎの家

(1) 介護部門

平成 30 年度施設の事業計画・介護部門の事業計画を念頭に、ご利用者が安心して楽しく生活できるケアに努めた。また、平成 29 年度の反省点について改善、向上できるように介護職員全員で取り組むように努めた。

①各委員会の取り組みについて

※年 2 回の定例会にて現状課題について話し合い取り組むように発信をした。また、内部研修を通じて介護職員の資質向上に努めた。

※感染、褥瘡予防委員会では医務室・管理栄養士との連携を図り各グループの委員を中心にご利用者の現状について報告・連絡・相談を行い、必要に応じてカンファレンスにて話し合いを行ってきた。事故防止・身体拘束廃止・虐待防止委員会では毎月のグループ会にて繰り返し話し合いを実施した。全ての課題解決に繋がってはいないが、施設のケア向上に繋がるように各委員会所属の職員を中心に考え取り組んだ。

②多職種連携について

歯科医師による毎月の口腔ケア指導は対象グループを決めて継続して実施している。毎週水曜日には、歯科医師の訪問診療にてご利用者の状態に合わせた口腔内の観察や治療を実施している。機能訓練については理学療法士のリハビリが限られたご利用者のみの実施となっている。各グループの介護職員による生活リハビリはケアプランに添って実施しているが、重度ご利用者の拘縮予防、身体機能の向上には繋がっていない。

③職員研修について

※介護保険制度で定められた必須研修(感染予防・事故防止・身体拘束廃止・虐待防止)については適宜開催した。

※毎年、継続している年度初めに職員から提出される自分シートを活用し目的を持った研修(外部、内部)に積極的に参加している。また、外部研修に参加した職員からの伝達研修をすることでご利用者により良いケアが提供できるように努めている。その他にも新人職員への{初期}{中期}{後期}の職員研修を他職種にも協力してもらい、専門職としての資質向上に向けた体制作りを強化した。

④安全・衛生委員会について

安全・衛生委員会の目的に添って毎月テーマを決めて検討し職員に発信した。内容を職員に発信することで職員の健康管理や働く環境整備に取り組んだ。

⑤ご家族、ボランティアの方々との交流について

年 2 回の家族会とファミリー清掃を通じてご家族との交流を図り、他のご家族や職員との積極的な信頼関係作りに努めている。また、年間行事に平成福祉専門学校の学生ボランティアの協力や外部のボランティアの方々にも参加していただきご利用者の余暇活動の充実にも努めている。

そよかぜグループ「より良い生活が送れるためのケアをする」

(目標に対して)

- ・ご利用者のニーズに応え、買い物や外出など外出の機会を増やし喜んでもらえた。
- ・ご利用者とのコミュニケーションを大切に、ご利用者の希望に添えるように努めた。

(H30 年度の課題)

- ・ご利用者の体調管理については、剥離や褥瘡、感染症での入院が例年と比較して多かった。
- ・ご利用者ケアについては、その都度話し合いをした内容を周知していたが、統一したケアができていない部分があった。

(今後に向けて)

- ・ご利用者処遇に関してはケアの目的を明確にした周知を行い、職員の意見を集約して業務の見直しなども随時行い職員全員で情報共有し実施していく。
- ・個別ケアについて細かい所までしっかりと決めて、全員で統一したケアが実践できる体制作りに努める。
- ・感染症予防については、ご利用者の体調や状態の変化など職員が意識をして早め早めの報告をすることで予防していく。

さくらグループ「ご利用者の笑顔が増えるケア」

(目標に対して)

新体制となり職員も慣れていない状況での平成 30 年度であったが、毎月のグループ行事、施設の行事に参加してもらい楽しい時間を増やすことが出来た。又、ご利用者の認知症周辺症状についてはグループ全体会で個別処遇、良いケアの取り組みを通して職員全体で情報を共有する事で落ち着いて過ごせるよう実践できた。

各居室の清掃、シーツ交換は計画通りに実施できていないことがあった。

インフルエンザ A の感染症の罹患があったが、ご利用者の重篤な状態や蔓延することは防げた。

(H30 年度の課題)

- ・居室清掃は毎日 1 部屋の実施としているが、床頭台やベッド下の清掃が不十分であった。
- ・ホールの温度管理が難しかった。

(今後に向けて)

- ・居室の環境整備、清掃について感染委員会を中心にグループ全体で取り組む。
暑くなってくる季節なのでホールの温度に気をつけ環境や職員への注意喚起を行いご利用者が過ごしやすい環境に整えていく。

たいようグループ「健康維持と希望を叶えるケア」

(目標に対して)

- ・ご利用者の健康維持については、骨折 2 件の重大事故が起きており、ご利用者の不利益となってしまった。
- ・清潔な環境整備については、ホール内の掃除はほぼ毎日行えていたが、各居室の清掃が十分に行えていなかった。
- ・ご利用者の希望に沿ってケアについては、出来る限りご希望に沿ってケアが出来ていたのではないかとと思われる。

(H30 年度の課題)

- ・骨折がきっかけで退所になったケースから学び、その人にとっての適切な関わりや生活環境を作っていくことに考えが十分及ばなかったこともあった。
- ・目先の業務が先に立った現状が目立った。

(今後に向けて)

- ・ご利用者の環境が本当に適しているかどうか他部署を交えて考え、必要であれば見直していくように職員全員で心がける。
- ・意思の伝達できないご利用者に対しても思いを汲み取り、適切な対応を心がけていく。
- ・業務の開いた時間を有効的に活用し清掃等行い、ご利用者にとって清潔で健康な生活環境を提供していく。

つばさグループ「ご利用者が安心して楽しめる居場所作り」

(目標に対して)

- ・ご利用者の側で寄り添う事によって、やりたい事や楽しみを見つけながら、希望に添った行事やケアができた。
- ・職員間での申し送りや状態の変化への気付きによって、他部署とも連携をとる事ができ、早期対応に繋がった。
- ・転倒事故が多く発生し、重大事故に至ったケースがあった。

(H30 年度の課題)

- ・観察はできていたが、職員の考え方や対応の仕方に個人差があった。
- ・統一したケアが不十分であったことから、安全が確保されなかったといったケースもあった。

(今後に向けて)

- ・ご利用者の安心できる環境を物的・人的共に考え、楽しみの基本に安心があるということをグループで共有し、ご利用者一人一人の思いに寄り添う事をケアの基本とする。
- ・リスクを予測する力、判断する力、行動力共にグループ職員の質向上に取り組む。
- ・仕事に対する意識改革と考え方の統一を目指す。

(2) 身体拘束廃止・虐待防止委員会 「虐待ゼロ・不適切なケアをゼロにする」

① 重点目標に対して

H30 年度は虐待・不適切なケアともに問題として挙がる事例は発生しなかった。しかし、職員の中から、「適切とは言えない」言動がケアの中で感じる場面があると意見が出た。不適切な場面が起こる状況とは、イコールご利用者が困っている状況であること。生活の中心にご利用者がいるか？主語がご利用者であるか、今一度日々のケアを見つめなおすことが必要である。また今後不適切な声がけについて、互いに注意し合える関係づくりが大切である。

② 年に 4 回身体拘束廃止・虐待防止定例委員会を実施

委員会の中で以下の内容について報告・検討行った。

・「虐待リスク検討シート」「良いケアへの取り組み書」について

毎月のグループ会で困難事例や、虐待の危険性について話し合いができた。一人のご利用者を集中的に観察し本人の思いと客観的な視点で検討し実践に繋げた。結果、本人の真なる想いは明確にはならなくとも、生活の中での不快な気持ちを軽減するための対応を皆で考えることができ、利用者の思いに寄り添うきっかけとなった。施設全体で「介護拒否」が「職員にとって都合の悪い人」という考えに移行しないような、相手の痛みを理解する感性を育てるきっかけとなる機会を意図的に作れるよう今後も委員会で発信していきたい。

・「言葉遣い〇×シート」実施について

今年度からグループ別でご利用者の状況に応じた内容で行った。結果、ご利用者の不安症状が軽減できたという結果が出たこと、またそれによって職員の気持ちの余裕に繋がったと考える。〇×シートが絵に描いた餅にならないよう今後も適宜見直しをかけ、継続して使えるシートであるよう努めていく。

③虐待防止の内部研修

各グループで対応困難事例を挙げ独自のシートを使い、数ヵ月間の取り組みを実施し、アセスメント、課題分析とプランニング、取り組みの経過とモニタリングのシートに記載して、研修の場で報告した。改善できた事例もあったが、大きな成果や改善が見られなかったグループもあった。しかし、全員で取り組むことで一人のご利用者を深く知ることができ、その方の立場に立って考えること、皆で悩み意見交換し 1 つの方向に向かっていく良い経験となった。そして何より、相手を変えるのではなく自分たちがご利用者に合わせていくことが大切という介護職として貴重な学びを得られた。

(3) 事故防止委員会 「重大事故をなくす」

目標を念頭に平成 29 年度の課題解決、重大事故減少に繋がるように継続した取り組みを行ってきたが、重大事故発生件数は平成 29 年度 17 件に対して平成 30 年度も 17 件発生している。しかし、平成 29 年度に多かった骨折事故については減少している。

① 誤薬事故については、平成 29 年 1 月新服薬マニュアルの周知にて誤薬「0」を

達成することができたが、平成 30 年度は 5 件発生している。誤薬事故防止の取り組みとして再度服薬マニュアルとリスク管理について職員研修を実施した。その後、服薬マニュアルを守られていないと判断された誤薬事故は発生していない。今後も服薬マニュアル遵守の意識付けを継続していく。

- ② 重大事故と判断された骨折事故については、平成 29 年度 10 件に対して平成 30 年度は 4 件と減少している。4 件の内 2 件については自力、または軽介助で歩行することができるご利用者であった。リスク管理を実施する中で高齢者の日常生活動作や認知症ご利用者の対応について、事故防止委員会総会にて検討した内容を職員に周知していくことやご利用者の状態の変化に対する記録について課題が残った。
- ③ その他の軽微な事故については、64 件減少している理由としてはショートステイご利用者の事故が減少していることや、ご利用者の重度化によるリスク軽減などである。また、転倒のリスクが高いご利用者に対しては職員の申し送りができていたことも減少した理由となっている。しかし、ご利用者の状態は日々変化しておりマンパワーに頼りすぎない対応策とご家族への理解や協力もお願いをして大きな怪我に至らない対応に努める。
- ④ 感染症（インフルエンザ、ノロウイルス）については、平成 31 年 1 月にインフルエンザ A 型が 1 号館 2 階グループで発生している。罹患者については職員が 2 名、入居者が 7 名、ショートステイが 1 名であった。最初の発症から速やかに感染マニュアルを実行できたことや多部署との連携を図ることで 2 号館や 1 号館 1 階への蔓延を防ぐことはできた。また、朝倉病院の協力があつたことで罹患者を増やす事は防げた。感染症については年間を通じて動向を把握し適宜職員への周知や注意喚起を実施してはいる。今後もご利用者の感染症予防に努めていく。
- ⑤ 平成 31 年度については、事業計画、事故防止総会にて課題と取り組み内容を明確にしている。今後も事故防止委員会の目標に添って職員への外部、内部研修、日々の指導・育成を通じてご利用者の状態に合わせたケアを実施していくことで、ご利用者の安全を保持していけるようにしていきたい。

（４）ケアマネ部門

I 施設サービス計画書の作成に関して

- ① サービス計画を作成するためのアセスメントに関して、当施設独自のアセスメント表 身体機能評価シート、アセスメント表 3 を他職種共同で作成し、定期的の実施してきた。アセスメント表 1 では、既往歴、現病などの健康状態、服用している薬剤、期間中の発熱、期間中の受診・入院の有無、褥瘡のリスク、皮膚の問題などを看護職員、ケアワーカーが記載したケース記録をもとに、担当ケアマネが取りまとめて記載している。またご利用者本人の意思も担当ケアマネが聞き取り記載している。身体機能評価シートでは、起居、立位、歩行、着脱、整容の各動作の自立度だけでなく、低栄養、脱水、便秘等のリスクの評

価に資するために、直近 2 ヶ月間の食事摂取量および水分摂取量、排泄の 1 日の回数とトイレ等で排泄があった回数、排便間隔、等々を記載する項目を盛り込んで担当ケアワーカーが評価をしている。アセスメント表 3 では認知症症状について担当ケアワーカーが評価している。身体機能評価シートとアセスメント表 3 は最終的に担当ケアマネージャーがその内容を吟味したうえで、サービス担当者会に提出した。

- 2、モニタリングについては、的確に実施するように努めた。モニタリング原案の項目を担当ケアマネが作成し、ケアプランチェック表の集計に踏まえてケアワーカーから聞き取った内容を原案としてまとめ、サービス担当者会に提出した。またモニタリング原案の中に、在宅復帰についての項目を設け、キーパーソンを含むご家族の状況を踏まえて、在宅復帰の可能性について担当ケアマネの意見を原案として提示した。
- 3、ケアプラン原案についても、今年度は確実に作成するように努めた。ICF の生活機能理論に踏まえて、生きがいの目標、活動の目標に関して担当ケアマネの意見を项目的に提示した。そしてそれに基づき、前回作成したサービス計画書 (2) を修正または継続してケアプラン原案を作成し、担当者会に提出をした。
- 4、サービス担当者会議には、ご利用者本人および家族が多く参加できるように調整した。ケアマネが主催し、上記のアセスメント表 1~3、モニタリング原案、ケアプラン原案素案、ケアプラン原案を順次説明し、ケアワーカー、看護師、管理栄養士、ケアマネがそれぞれの領域ごとに専門的な意見を述べ、本人・ご家族の意向をお聞きし、新しい計画について本人・ご家族と施設職員の合意を作り、ケアマネが取りまとめるかたちで担当者会を実施した。在宅復帰の可能性についても、ご家族の意向に踏まえて検討し結論を出す。
- 5、サービス担当者会のご利用者の介護保険の要介護度更新認定時にできるだけ合わせて実施した。また、要介護度更新認定時の場合は、「介護保険更新月」と見出しを付けた。
- 6、サービス担当者会議後、担当ケアマネはモニタリング原案、ケアプラン原案、ケアプラン原案を加筆修正して、サービス計画書 (1)、サービス計画書 (2)、サービス計画書の要点 (第 5 表) を仕上げて、担当者会開催月内にご家族 (身元引受人) の同意を得て、交付するように努めた。

サービス計画書 (2) のサービス提供開始は担当者会開催月の翌月月初として、サービス計画書についてご家族の同意を得て交付した後に、サービスを開始する手順を整備した。

- 7、サービス担当者会議にご家族が参加できない場合には、ご家族の意向の聞き取りをして、サービス計画作成に反映させるように努めた。また担当者会議の開催後、電話等で討議した内容を報告し、ご利用者の状態および施設サービスの内容を十分理解していただくように努めた。電話で聞き取りをした内容はサービス計画書 (1) に記載した。
- 8、褥瘡発生時には、褥瘡発症と診断された当日に可能な限りサービス担当者会を実施し、褥瘡発症に限定したアセスメント・プランニングを実施した。また医療機関入院中に身体的・精神的な状態が大きく変化した場合も、退院した当日にサービス担当者会を実施し、

アセスメントのやり直し・サービス計画書の修正あるいは変更を行った。その場合のサービス担当者会にご家族が参加できたこともあったが、参加できなかった時は事前に担当ケアマネが電話で意向の聞き取りをし、ケアプランに反映させるようにした。

Ⅱ、機能訓練の取り組みについて

- 1、身体機能面で維持向上の課題があるとケアマネが判断したご利用者に関しては、ケアプランに挙げて意識的な取り組みを実施した。専門的なリハビリが必要なケース、新規入所者でリハビリ内容の評価が必要なケースなどは PT にリハビリ業務を担ってもらっているが、必要な方全員には実施ができていないのが現状。それ以外は PT の指示に基づいて、ケアワーカーが簡単な訓練を実施した。
- 2、PT が実施しているリハビリ内容は記録に残して、他職種に周知する体制をとっている。またご家族からの要望がある時にはケアマネが要望を聞き取り、PT に伝えてスケジュールを調節して、出来るだけ希望に沿いながら、リハビリが実施されるようにしたいが、定員いっぱいであり新規の依頼はできていない。PT とケアワーカーの協働体制でご利用者の身体機能の維持向上をはかる体制をとっている。
- 3、PT による機能訓練の指導内容や実施状況を把握し、ケアマネが立案するケアプランに反映させるようにした。
- 4、上記以外のご利用者については、生活動作や身体状況に応じて、ケアワーカーによる生活リハビリを実施した。

(5) 医務室

- ①利用者の心理的特徴と健康状態を把握し、それぞれの健康レベルに応じた日常生活が継続できるよう支援につとめた。

利用者の日常生活に密着して業務を行っているケアワーカーより正確な情報提供を受けて、早期発見・危険防止と的確な治療対応を行ってきた。

各職種がそれぞれの立場から専門的な関わりをするとともに、互いの業務内容を理解し、協働し利用者の健康維持に努める事が出来た。

利用者の大半が内科的疾患・脳血管障害の後遺症・骨、関節系疾患、泌尿器科的疾患、皮膚科的疾患等一人ひとり抱え持つ疾患が多数である。

その為、入退院・退所に至る利用者が多数になった年でもあった。

②感染対策について

感染対策として、日々、職員への周知や研修を行った。季節的なインフルエンザやノロウイルスなどの集団感染症についてはH30年11月には計3回の施設内の介護・看護職全員を対象に吐物処理についての研修を行った。

インフルエンザについて30年度はインフルエンザ予防接種を11月に職員、利用者

が受けた。31 年 1 月には 1 号館の 1 グループよりインフルエンザ A の発症が見られ 2/1 より全居室隔離対応、利用でき 2/8 には終息する事が出来た。今後もバイタルサイン観察・他職種との連携を密にし、感染症予防・拡散予防対策を徹底するため、保健所等の勉強会に参加していく。

◎ 尿路感染症の予防に努める（排泄ケアの見直し）

陰部洗浄の必要性の指導と排泄ケアの見直しを行い、尿路感染症予防に努めた。
 今後はさらに「水分摂取・陰部洗浄強化」を行っていく。

◎ 蜂窩織炎の予防に努める

蜂窩織炎の既往のある方や、血行障害のあるご利用者様、反復性の蜂窩織炎のご利用者は、特に皮膚状態の観察と白癬治療を徹底して行った。好発部位のみでなく全身の皮膚観察、治療・再発防止に努めたが、同じ利用者の再発も多くまだ課題もある。

◎ 褥瘡予防の取り組みを行う

褥瘡発生のハイリスクの利用者は特に注意して皮膚状態の観察を行い、
 上期 4 名・下期 2 名（内 1 名入所時からの持ち込み）の褥瘡発生がみられた。
 継続して早期発見・早期治療に努め、利用者個々の皮膚状態や栄養状態を各業種が
 共同し、医療部門は処置方法を看護師で検討し対応していく。

平成 30 年度 受診・入院状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
受診	26	36	43	44	31	18	35	30	34	37	25	31	32.5
入院	10	17	17	20	16	11	15	13	18	21	22	15	16.3

（6）給食室

給食管理、栄養管理を委託業者とも連携を取りながら行うことで利用者様の安定した生活の支援に努めた。行事食、グループイベントへの協力など食を通じた施設行事への取り組みにも力をいれ実施しすることで、ご利用者の日常に食事という楽しみを感じてもらえるよう努めた。

喫食調査の結果や普段のご利用者の声、職員味見結果は前年度に比べ良くなってきており食事に対する満足は向上してきていると思われる。献立の工夫、形態の工夫、調理面の工夫、食材の選定を委託業者と協力して取り組んだことが結果につながってきていると感じた。今後も食事を楽しんで頂けるよう、献立、調理の工夫を行っていく。また来年度は、ミキサー食やソフト食といった嚥下調整食のご利用にも安全でおいしく楽しい食事が提供できる取り組みを行っていききたい。

栄養管理面では、食事・栄養面に問題のある利用者には多職種でのカンファレンスを開くなど先的に介入していくよう努めた。またグループ会、担当者会にも、参加しご家族やご利用

利用者のご希望に添った食事への思いを栄養ケア計画の中に入れるようにし 106 名の栄養ケア計画を実施した。利用者の重度化、高齢化が進み、ソフト食、ミキサー食といった、嚥下調整食ご利用者が増加傾向にある。嚥下調整食提供のご利用者も栄養が充分確保できる工夫を行った。

衛生管理については、管理栄養士による給食室内部研修を年度中 3 回実施した。また委託業者にも外部研修に参加してもらうなど協力を得ることができた。年末には厨房内の清掃強化週間を実施するなど、定期的に日頃の清掃以上の取り組みを行い、管理栄養士、委託業者で協力し、給食室内の衛生管理に取り組んだ。今後も食中毒発生予防に努めていく。できる限り食事時間に摂取状況を見に行き、また食事以外の時間でもご利用者のもとに伺うなどコニュにケーションをとることに努めた。しかし、給食室から食材や栄養関係の情報発信はほとんど行うことができなかった。ご利用者、他職種に向け、提供食、行事への関心を引くような情報発信を今後は行っていきたい。

給食部会について定期的な開催はできたが、参加が介護主任のみという月がほとんどであった。この会の開催方法についての検討が来年度にむけての課題であると思う。

給食室 30 年度年間行事

実施月	行事食		内部研修
4 月			施設方針について
5 月	子供の日 母の日	デザート デザート	
6 月	開園記念日	赤飯、刺身等	感染症・食中毒
7 月	七夕 土用の丑の日	七夕そうめん うなぎ	
8 月	納涼祭さわやか里の夕べ	ご利用者全員参加のため特別献立	
9 月	敬老の日 秋分の日 彼岸	祝ご膳 赤飯 ぼたもち	
10 月	十五夜	デザート	
11 月			食中毒
12 月	冬至	かぼちゃ料理	

月	クリスマス 号館クリスマス会 大晦日	鶏料理、デザート ピザ、ケーキ 年越しそば	
1 月	元旦 七草粥 鏡開き 季節のデザート	おせち料理*弁当箱使用 七草粥 ぜんざい 福寿草	
2 月	節分 皿鉢の日	寿司、節分豆（卵ボーロ）	
3 月	ひな祭り 彼岸	寿司 おはぎ	保健所研修報告

（７）事務部門

- ・施設の窓口として接遇に十分配慮し、明るく、親切、丁寧な対応に努めた。
- ・補助金を上手く活用し、必要な物品を計画的に購入することができた。
- ・職員の入退職が少なく欠員補充に追われることのない安定した１年となった。
- ・ご利用者が日々利用するトイレ手洗や洗面台の改修工事を行い、車イスでも快適に利用できる環境が整った。また、薄暗かった照明をＬＥＤに交換したことで、ご利用者が過ごすホールの雰囲気が一変した。
- ・平成福祉専門学校の学園祭と施設の災害ワーキングを同時開催したことで、ご家族や地域の方々にも参加していただくことができた。

（８）生活相談員部門

1、地域との交流窓口について

- ・地域の夏祭りへ参加させて頂いた。また、大規模災害に備えた防災訓練を企画し、地域の方々への参加の呼びかけを行なった。
- ・踊り、清掃、高齢者との交流、行事のお手伝い等のボランティアを受け入れ、ご利用者の満足度の向上に努めた。

2、ご利用者・ご家族との相談窓口と専門性を深める

- ・年末年始の外出や外泊時の送迎の相談や、ご家族が希望する受診の送迎等可能な限り対応できた。

3、家族会相談窓口について

- ・「やすらぎファミリー」の窓口となり、ご家族と共に、納涼祭のイベントや行事、年２回の施設内清掃を行なった。年２回の「家族懇談会」では、ご家族から意見・要望を頂く事ができ、施設からは報告をする場とした。特に秋の懇談会では、同時に施設内美術展とバザーを開催する事でご家族ご利用者共に楽しむことが出来た。ご家族から

は、一緒に美術展の写真を見て楽しむ事が出来て良かったと言うご意見が多く聞かれた。

4、入所希望者・待機者の相談窓口について

- ・入所を希望される方については、当施設の見学を勧め、料金を含めた施設の説明を行なった。入所待機されている方については、昨年度よりも多く待機場所へ伺い、当施設での生活が可能かどうかの調査を行なった。
- ・医療機関や介護保険施設への問合せや、パンフレット等を持参し、当施設への入所が必要と思われる、入所申込者の確保に努めた。

平成 30 年度 やすらぎの家 入所者状況 (やすらぎの家 ご利用者状況)

市町村	高知市	土佐市	須崎市	香南市	越知町	本山町	佐川町	いの町	中土佐町	中芸広域	南国市	黒潮町	計
男	17	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	19
女	71	4	0	2	1	1	1	2	2	0	1	1	86
計	88	4	1	2	1	1	1	2	2	1	1	1	105

*平成 31 年 3 月 31 日現在

年齢別人員

性別	～64	65～74	75～84	85～94	95～105	合計	最高	平均
男	1	6	6	6	0	19	91	78.5
女	1	7	16	51	11	86	99	86.7

*平成 31 年 3 月 31 日現在

入退所状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所者	男	0	0	1	1	1	1	0	1	0	1	1	1
	女	1	2	1		4	1	2	2	3	2	2	4
	計	1	2	2	1	5	2	2	3	3	3	3	5
退所者	男	0	2	0	2	0	1	0	1	0	1	1	1
	女	1	2	0	0	4	2	1	2	3	2	2	5
	計	1	4	0	2	4	3	1	3	3	3	3	6
末月	男	20	19	20	19	20	20	20	20	20	20	20	19

	女	86	86	86	86	86	85	86	86	86	86	86	86
	計	106	105	106	105	106	105	106	106	106	106	106	105

サービス利用状況

		要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
4 月	延べ	30	90	683	1690	580
	実利用	1	3	23	58	21
5 月	延べ	31	93	607	1696	577
	実利用	1	3	22	59	20
6 月	延べ	30	90	621	1700	628
	実利用	1	30	22	59	21
7 月	延べ	31	93	581	1685	593
	実利用	1	3	22	58	21
8 月	延べ	31	93	619	1728	578
	実利用	1	3	22	59	21
9 月	延べ	30	90	618	1725	623
	実利用	1	3	21	59	21
10 月	延べ	31	93	610	1771	664
	実利用	1	3	20	60	22
11 月	延べ	30	90	626	1741	575
	実利用	1	3	21	60	21
12 月	延べ	31	93	651	1750	560
	実利用	1	3	22	61	19
1 月	延べ	31	93	643	1773	594
	実利用	1	3	22	60	20
2 月	延べ	28	84	566	1473	603
	実利用	1	3	23	58	22
3 月	延べ	31	93	624	1654	721
	実利用	1	3	21	57	24

平成30年度 ボランティア・施設見学等来園者状況

来園月日	団体（個人）名	来 園 目 的	人 数
4月21日	やすらぎファミリー	懇談会	39名

6月3日	やすらぎファミリー	館内清掃	25名
8月3日	やすらぎファミリー	納涼祭手伝い	2名
	平成福祉専門学校	納涼祭手伝い	20名
8月9日	祭三代・IKU	鳴子踊り	23名
8月11日	ユースホステル協会	鳴子踊り	30名
9月17日	JA朝倉支所女性部	敬老の日行事 歌と踊り	25名
11月3日	やすらぎファミリー	懇談会・館内清掃	28名
11月28日	NTT OB	車椅子清掃	15名
	高知商業高校	施設体験	35名
11月29日	朝倉中央保育園	利用者との交流	27名
	木の丸保育園	利用者との交流	22名
12月10日	高知商業高校	施設体験	35名

*上記以外でも、裁縫ボランティアの方や、隣接する「平成福祉専門学校」の学生が授業の一環として、また、介助ボランティアとして、やすらぎの家へ来園し、ご利用者の方々と触れ合っています。

やすらぎの家 研修参加状況

月	日	開催地	研修会名	研修内容	主催者	人数
4	3	やすらぎの家	内部研修	訓示・30年度事業計画	やすらぎの家	全職員
	12	やすらぎの家	内部研修	排泄ケア基礎研修	やすらぎの家	介護職、相談員、ケアマネ
	13	高知市	高知県福祉・介護職員合同入職式		高知県	3
	16	やすらぎの家	内部研修	排泄ケア基礎研修	やすらぎの家	介護職、相談員、ケアマネ
5	17	やすらぎの家	内部研修	排泄ケア勉強会	やすらぎの家	各グループから2名選出
6	7	高知市	いきいき百歳サポーター育成教室	健康体操の効果、知識、実技	高知市高齢支援課	2
	11	高知市	いきいき百歳サポーター育成教室	健康体操の効果、知識、実技	高知市高齢支援課	2
	14	やすらぎの家	内部研修	排泄ケア勉強会	やすらぎの家	各グループから2名選出

	14	うららか 春陽荘	高知老施協中央Bブ ロック生活相談員・ケ アマネ合同勉強会	成年後見人制度につ いて	高知県老施協	5名
	15	高知市	排泄ケアセミナー	生活の場からみる拘 縮ケアの実際	LLC 地域ケ ア研究所	2
	22	高知市	感染予防対策セミナ ーin 高知	施設で蔓延させない ための感染予防対策	(株) リブ ドゥコーポ レーシ 7 ョ ン	2
7	4～5	徳島市	第 67 回四国老人福祉 施設関係者研究大会	未来をつくる地域共 生社会をめざして	四国老人福 祉施設協議 会	3
	10	高知市	認知症介護基礎研修	認知症の人の理解と 対応の基本	高知県社会 福祉協議会	2
	20	やすらぎ の家	内部研修	ワークライフバラン ス	やすらぎの家	全職員
	22	岡山市	“口を開けない”認知症 の方の食支援アプロ ーチ	食欲不振の原因を見 極める	全国高齢者 施設看護師 会	3
	24	高知市	高齢者虐待防止中堅 職員研修	認知症ケアとストレ スマネジメント	高知県社会 福祉協議会	1
	25、 27	やすらぎ の家	内部研修	ノーリフトケア：リ フトの使用法	やすらぎの家	介護職 相談員 ケアマネ
8	21	高知市	ケア基本研修	尊厳の保持と自立支 援	高知県老人 福祉施設協 議会	3
	21～ 24	やすらぎ の家	内部研修	投薬マニュアル伝達 研修	やすらぎの家	介護職 相談員 ケアマネ
	31	高知市	中間管理職育成向 上研修会	組織の育成風土醸成 のために	高知県老人 福祉施設協 議会	2
9	1	高知市	認知症のマネジメ ント講習会	医療と介護・リハビ リテーション	認知症のマネ ジメント講習 会事務局	2

	2	高知市	リスクマネジメント 研修	虐待防止と職業倫理	高知県介護 福祉士会	2
	3	高知市	福祉サービス苦情解 決セミナー	福祉サービスにおけ る苦情解決方法につ いて	高知県社会 福祉協議会	
	12	高知市	人材育成計画セミ ナー	辞めない組織を作 る	ジョブカフ ェこうち	2
	18	やすらぎ の家	内部研修	認知症ケア伝達研修	やすらぎの家	介護職、相談 員、 ケアマネ
9	21	高知市	高知県老施協合同研 修	機能訓練指導員の役 割と他職種との連携 について	高知県老人 福祉施設協 議会	1
	21	高知市	こうち介護カフェ	高知の介護人材の現状 と今後について	高知市健康 福祉部	1
	26	高知市	高知県老施協事務職 員研修会	監査・介護報酬改定・ ICTなど	高知県老人福 祉施設協議会	2
	28	高知市	西部地域医療カンフ ァレンス	被災時の現実	西部地域医療 カンファレン ス実行員会	3
10	2	高知市	介護現場で活かせる レクリエーション	支援方法と技術	介護労働安定 センター	2
	3	高知市	施設内感染対策研修 会	施設における感染症 対策	高知保健所	3
	6	須崎市	感染症予防基礎研修	感染予防の基礎・防 止の実践を身に付け る	高知県老人福 祉施設協議会	2
	10～ 12	東京都	第 45 回国際福祉機器 展	国際シンポジウム・世界 の福祉機器見学など	H C R 2018 事務局	3
	15	高知市	中間管理職育成向 上研修会	組織の育成風土醸成 のために	高知県老人 福祉施設協 議会	1
	19	高知市	中央 B ブロック 栄養 士勉強会	補助食で困った時に	高知県老人福 祉施設協議会	1
	19	高知市	近森病院 地域医療 講演会	窒息事故ゼロを目指 して	近森病院	3

	24	やすらぎ の家	内部研修	身体拘束・虐待防止 委員会研修事例発表	やすらぎの家	全職員
11	1.2.5	やすらぎ の家	内部研修	感染症対策実技 吐物処理方法	やすらぎの家	全職員
	7	徳島市	見学研修会 大塚製薬 徳島工場	大塚製薬の健康への取 組みについてなど	高知県食と 栄養の会	1
	10	高知市	高知県口のリハビリ テーション研究会実務 者研修	食事介助方法につい て学ぼう	高知県口のリ ハビリテーシ ョン研究会事 務局	3
11	11	高知市	高次脳機能障害 リ ハビリテーション講 習会 2018	社会的行動障害	高次脳機能障 害リハビリテ ーション講習 会実行委員会	2
12	2	高知市	四国ブロック支部大 会	いろいろなかたちの 看取り～介護支援専 門員の役割～	高知県介護 支援専門員 連絡協議会	2
	4～5	高知市	四国ブロックカント リーミーティング	介護・福祉が未来を 拓く	四国老人福祉 施設協議会	2
	14	高知市	相談援助（ソーシャル ワーク）応用研修	相談援助とは	高知県社会 福祉協議会	1
	20	高知市	ケアステップアップ 地域研修	薬に関する基礎知識	高知県社会 福祉協議会	2
1	12	高知市	記録の書き方 基礎 編	講義 ～書き方・留意点～	高知県介護 福祉士会	2
	14	南国市	高知県介護福祉士会 第2回全体研修会	口から食べる喜びを 続けるために	高知県介護 福祉士会	2
	28	高知市	認知症ステップアッ プ地域研修	認知症についての基 本研修	高知県社会 福祉協議会	1
	29	高知市	地域生活定着支援研 修会	地域で見守る更生支 援	高知県	2
	30	高知市	食品等事業者研修会	食品衛生法の改正に ついて	高知市保健 所	1
2	3	高知市	第1回高知家ノーリフ ティングフォーラム	利用者と職員を守れ る職場づくりに向け て	日本ノーリ フト協会高 知支部	5

2	24	高知市	高知県介護福祉士会 第3回NEXT勉強会	口腔ケアの理解	高知県介護福祉士会	2
	28	やすらぎの家	内部研修	介護保険制度、ケアプランについて	やすらぎの家	全職員
3	20	高知市	高知県老協 介護支援 専門員・生活相談員研修 会	介護報酬改定後の新設 加算の検証について	高知県老人福祉施設協議会	3
	20、 26	やすらぎの家	内部研修	ノーリフトケア研修	やすらぎの家	介護職、相談員、 ケアマネ
	21	高知市	栄養士・介護職員・デ イサービス合同研修 会	認知症高齢者における 栄養管理と看取り 時期の食の在り方	高知県老人福祉施設協議会	2

2 短期入所生活介護（ショートステイ）

短期入所生活介護（ショートステイ）の受け入れ窓口として思いやりを持った対応を心がけ、在宅で生活されている方々の日常生活動作の維持という観点を大切にし、ご利用者・ご家族共に安心してショートステイのサービスを利用していただけるよう努めた。認知症の方が、住み慣れた自宅から環境の違うショートステイで穏やかに過ごして頂ける様に受け入れグループと話し合いを持ち、居宅ケアマネと調整を行い継続してショートステイを利用する事が出来た事例もあった。可能な限り在宅生活の継続ができるよう、在宅での生活習慣に近いサービスの提供に努め、介護スタッフの協力の元、個別ニーズに応えることができた。また、話しやすい・相談しやすい窓口としての役割に努め、ご家族との関わりを大切にした。利用中の様子のこまめな報告や、必要と判断された場合は、ご家族に相談の上、病院受診の援助も行なった。

居宅介護支援事業所の介護支援専門員やサービス提供事業所と連携を図り、ご利用者の状態把握に努めた。

H30 年度 やすらぎの家（短期入所）サービス利用状況（介護保険請求者数による）

		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
4 月	延べ		11	36	76	54	96	16	289
	実利用		1	6	10	4	11	2	34
5 月	延べ		8	38	107	69	101	0	323
	実利用		1	5	11	7	9	0	33
6	延べ			41	43	71	127	2	284

月	実利用			6	5	7	12	1	31
7	延べ		30	37	64	65	118	30	344
月	実利用		1	4	6	5	12	2	30
8	延べ			61	62	56	133	34	346
月	実利用			7	6	7	12	4	36
9	延べ			34	46	59	117	41	297
月	実利用			3	6	7	11	3	30
10	延べ			65	65	65	104	31	330
月	実利用			7	9	7	11	4	38
11	延べ			41	70	93	108	24	336
月	実利用			5	10	8	11	2	36
12	延べ			29	66	105	90	32	322
月	実利用			3	8	7	11	3	32
1	延べ			31	65	76	100	41	313
月	実利用			4	9	7	11	4	35
2	延べ			25	54	59	74	35	247
月	実利用			2	5	6	9	4	26
3	延べ			54	29	106	95	22	306
月	実利用			3	4	8	9	3	27
合	延べ	0	49	438	718	772	1168	286	3737
計	実利用	0	3	55	89	80	129	32	388

3 グループホーム ほのぼのの家

<基本方針>

「日々の生活の中で、ご利用者の笑い声や楽しい会話が聞こえるようにコミュニケーションを大切にし、ご利用者一人一人に向き合い個々の生活ニーズ沿ったケアに努める。」

<重点目標>

- ①家庭的な生活を送る事を目標に、ご利用者が安心して過ごせる環境を作り、個々の能力に合わせた家事動作等に参加し充実した日々を過ごせるよう支援する。
- ②日々の余暇活動や外出支援の充実を図る。
- ③ご家族にも年間行事等に参加して頂けるような環境作りと機会を設け、日々の連携を大切にし、信頼関係が築けるよう努める。
- ④医療連携体制の充実を目指し、訪問看護や関係医療機関との情報共有を行い、ご利用者の健康管理に努める。
- ⑤地域との交流の機会が持てるよう行事等にも積極的に参加し、地域住民と事業所との

関係を築き、災害時等の協力体制の構築を図る。

- ⑥積極的に内部、外部研修への参加する機会を設け、職員の資質向上を目指し、より良いサービス提供ができるよう努める。

年間計画

4 月	誕生会・お花見
5 月	誕生会・春の遠足
6 月	防災訓練(自主訓練)・紫陽花見物・蓮見物
7 月	七夕行事・わかくさ納涼祭
8 月	さわやか里の夕べ・よさこい見物
9 月	敬老会・オールドパワー展見物
10 月	秋の遠足・コスモス見物・さんま大会
11 月	菊花展見物・美術展見物
12 月	誕生会・餅つき・クリスマス会(木の丸保育園児との交流)
1 月	誕生会・初詣・新年会・防災訓練
2 月	誕生会・節分
3 月	誕生会

[2]うららか春陽荘関連事業

総括

平成 30 年度の施設運営面では、特別養護老人ホームは平成 29 度年間延べ 2,000 日にのぼった入院日数を 1,440 日と大幅に削減でき、稼働率を 92.6%から 94.5%に上昇させることができた。この要因としては、3 年前から取り組みを始めたノーリフティングケアに対する介護職員の意識・技術の向上や介護機器の整備により、ご利用者の安心・安全な生活を具体化できたことが大きいと思われる。その他、施設の一角を利用し心身の維持・向上を目的とした生活機能訓練の実施や、医療機関との連携を密に行い入院期間の短縮に向けて活動したことなどが挙げられる。また、特養ご利用者の空きベッド(入院・退居に伴う)の有効活用として空床ショートに積極的に取り組んだ結果、空床込みの年間平均稼働率は 95.7%となった。

その他、デイサービス・居宅介護事業や小規模保育事業所のキッズガーデンはご利用者の確保に努め安定した運営を行った。

年間を通じて例年実施している季節に応じた行事を行ったが、うららか春陽祭(秋祭り)は台風の直撃が予想されたため残念ながら中止となった。

春陽荘全体では、災害、特に南海トラフに対する対応として、近隣の永井病院や地域

の方達と連携した災害ワーキングを行った。これは、災害時の避難誘導や負傷対応、衛生管理、また、病院搬送時のトリアージの訓練などを実施し、今後の課題を見つけるとともに職員の訓練や意識付けに成果が見られた。

今後ともご利用者やご家族、来所頂く方々に満足いただける施設として、地域の方々と連携し福祉の拠点、災害時の拠点として信頼される施設運営に取り組む。

1 特別養護老人ホームうららか春陽荘

ノーリフティングケアの考え方を全てのケアの根拠とし、ご利用者への不快な筋緊張を軽減させる取り組みを行った。特養部門全体にノーリフティングケアを定着させるため、推進チームにより定例会、グループ会での研修、介護職員への技術指導等を行った。また、床走行式リフトやスカイリフトの導入により、多くのご利用者に適切なケアが提供できるようにもなった。結果、肺炎や褥瘡の発症を前年度より少なくすることができ、稼働率は前年度比 102%という結果を出すことができた。

入所者の状況（平成 31 年 3 月 31 日現在）

(1) 保険者別人員

	高知市	いの町	土佐市	檮原町	香南市	日高村	大豊町	大月町	仁淀川町	計
女性	44	2	1	1	0	1	1	1	0	51
男性	24	1	1	0	2	0	0	0	1	29
計	68	3	2	1	2	1	1	1	1	80

(2) 年齢別人員

	65歳まで	65～70歳	70～75歳	75～80歳	80～85歳	85～90歳	90～95歳	95～100歳	100歳以上	計	平均年齢	最高年齢	最低年齢
男性	0	1	2	0	5	12	8	2	0	30	87.0	95	65
女性	1	1	4	4	5	13	15	6	1	50	87.1	105	62
計	1	2	6	4	10	25	23	8	1	80	87.1		

(3) 月間入退所者状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計

入所者	男	1	0	1	1	1	1	0	2	0	1	2	0	10
	女	0	6	2	2	1	0	1	0	1	1	1	1	16
	計	1	6	3	3	2	1	1	2	1	2	3	1	26
退所者	男	0	3	1	1	0	0	0	2	0	0	1	0	8
	女	1	3	1	3	1	2	0	1	1	1	3	1	18
	計	1	6	2	4	1	2	0	3	1	1	4	1	26
月末人員	男	29	26	26	26	27	28	28	28	28	29	30	30	
	女	50	53	54	53	53	51	52	52	51	51	49	50	
	計	79	79	80	79	80	79	80	80	79	80	79	80	

2 居宅介護支援事業所はるの

南部ブロック主任介護支援専門員資質向上委員会に参加し、事例を通じたスーパービジョンやモニタリング手法を学び、事業所内での介護支援専門員育成に活用した。また、春野地域ケア会議に積極的に参加し近隣居宅介護支援事業所との事例検討会を実施し、事業所の資質向上に努めた。

3 デイサービスセンターはるかぜ

ご利用者の個別性を重要視し、部屋ごとの活動の実施を行った。その中でも特にリハビリルームでの活動はご利用者から好評であり、機器の使用や専門職の関わりにより心身の活性化につながったケースもあり、取り組みの結果となった。また、うららかキッズガーデンの園児との交流を積極的に実施し、紙芝居の読み聞かせや創作物のプレゼント等を通じて、生活意欲の向上につながった。

4 デイサービスセンターそよかぜ

ご利用者個々の「強み」「弱み」「思い」を職員間で共有できる「ベストケア表」を作成し、ケアの標準化（統一化）に向けて取り組みをした。ベストケア表については運営推進会議でも報告し、参加者（ご家族・地域代表・地域包括）からも良い取り組みであると評価を頂いた。一方、ベストケア表を作成はしたが、職員全員がその情報を十分に把握しケアの根拠として活用するまでには至らず、ベストケア表の管理の方法や職員の意識向上が課題として残った。

5 短期入所生活介護うららか春陽荘（ショートステイ）

ユニット内の一角をリハビリルーム（活動スペース）とし、平行棒・ペダルマシン等を設置しご利用者に利用して頂いた。多数のご利用者に利用して頂き、ご家族からの評価として「ショートから帰ってきたら元気になっています。」「検査の数値が良くなりました」といった嬉しい言葉も頂いた。一方、リハビリルームが狭いことや、奥まった場所にあることから、多くのご利用者が同時に活動できる状況ではなく、限られた一部のご利用者のみ使用する場となってしまった。次年度に向けて、リハビリルームの場所の変更や活動内容の見直しなどが課題となった。

6 高齢者住宅等安心確保事業（横浜ニュータウン）

事業対象 30 世帯の方が地域で安心して生活が送れるよう、日々のコミュニケーションや安否確認を中心に活動を行った。緊急時の対応は年間 11 件であったが、大きな事故やトラブルはなく、生活援助員での対応で十分可能なものであった。

7 うららかキッズガーデン

園児の安心・安全な園生活の為、健康状態や日常の様子を確認しながら、日々の計画や保育士の配置を変更するなど柔軟な保育体制を整えた。また、保護者との情報共有や職員間の連携により、事故や感染症拡大を防ぐこともでき、苦情受付も 0 件であった。

8 年間行事実施状況

月	施設内	ボランティア
4 月	家族会・お花見	「ブルースカイバンド」
5 月	紫陽花鑑賞	
6 月	七夕飾り創作	「ミュージックラバー」
7 月	土用の丑の日・流しそうめん 七夕飾り	「なかよし会」
8 月	食楽会「ふんわりかき氷」	よさこい鳴子踊り鑑賞 「ムジカトゥッティー」
9 月	敬老の日式典	汲田さん団体コーラス(敬老会) 「越前琵琶保存会」
10 月	芋ほり・食楽会「おぜんざい」	「つくしの会」
11 月	焼き芋・美術展（文化祭）	童謡サークル「ほほほ」

12 月	餅つき・うららか春陽荘写真展	平和幼稚園お遊戯披露
1 月	初詣	
2 月	節分（豆まき）	
3 月	ひな祭り・書道・塗り絵	「どろんこ祭り」地元の祭り

9 各種委員会活動

(1) 事故防衛パトロール隊

介護事故の減少に向けて事故の要因分析能力向上を主とした研修を開催した。効果的な研修として全体研修での伝達ではなく、少人数単位での個別研修を複数回開催し、より理解を深めることが出来たと感じる。結果として、軽微（打撲・剥離等）から重大事故（骨折等入院加療を必要とするもの）まで、前年度から減少させることが出来た。一方、誤薬については前年と同等数発生しているため、マニュアルの見直しを含めた抜本的な見直しが必要と思われる。

(2) 感染予防対策委員会

感染症予防の三原則の徹底を施設内に呼びかけ、職員の感染予防に対する意識向上を図った。その結果、冬季の季節性感染症についてご利用者の罹患は 0 名であった。また、肺炎・尿路感染症・蜂窩織炎といった感染症も前年度に比べ減少しており、稼働率向上の要因となった。

(3) ケア向上委員会

身体拘束廃止・虐待防止のために職員への啓発活動を実施した。全体研修の他に、グループ会での伝達や DVD 研修（委員が作成した事例 DVD）を通じて、自身のケアを振り返るきっかけづくりを行った。今年度も身体拘束実施 0 件、虐待 0 件という結果であった。

(4) 褥瘡バスターズ委員会

今年度の褥瘡発症者は 4 名（施設内発症 2 名・退院時持込 2 名）で、前年度 3 名（全て施設内発症）と比較すると増えているが、施設内発症者数は減少している。今年度は褥瘡発生低リスク（OH スケール）と判定したご利用者が発症しており、リスク評価はあくまでも目安であり、低リスクと判定しても安全ではないということが分かり、次年度への課題となった。

(5) 災害対策委員会

前年度から取り組んでいた窓ガラスへの飛散防止フィルム貼りを、施設内前ガラス窓に施行することが出来た。また、毎年開催している「災害ワーキング」

を 11 月に開催し、地域と共に災害に対しての意識向上を図ることができた。
その他、地域の災害対策の中心となる防災士の資格を新たに 2 名取得した。

(6) 美化委員会

施設内を少しでも清潔な状態に保つため、お客様の目に触れることの多い共用部分の清掃を定期的の実施した。

(7) 安全衛生委員会

活動実績

月	内容	月	内容
4 月	活動予定及び職場巡視	10 月	食生活について (職員アンケート実施)
5 月	食中毒について	11 月	職場巡視
6 月	熱中症・脱水・健康診断	12 月	中止
7 月	飲酒及び飲酒運転について	1 月	長時間労働について (労働基準法) ストレスチェックの結果
8 月	スマホ等電子メディアの健康影響について	2 月	睡眠時無呼吸症候群
9 月	ストレスチェック制度	3 月	災害時の職員対応について

(8) 研修委員会

ご利用者の生活の質の維持・向上、職員の資質向上を目指し、施設内研修を企画、実施をした。これまでの研修開催方法 (同一内容を 2 回開催し、どちらかに参加) を一部の研修で見直し、事故防止や身体拘束廃止・虐待防止に関する研修については同一内容を複数回実施し、少人数単位での研修を実施した。研修を受ける職員からは「集中して受けることが出来た。」「分からないことはすぐに確認できた。」「時間外での研修にならなくて良かった。」という評価を受けた。

10 事業別活動実績

(1) 特別養護老人ホームうららか春陽荘 (稼働率) (%)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
93.13	91.41	92.96	89.23	94.07	95.83	96.94	97.00	94.31	96.01	95.18	97.86	94.49

(2) 短期入所生活介護うららか春陽荘 (稼働率) (%)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
91.33	90.00	89.00	87.58	93.71	94.00	95.00	92.33	88.06	90.65	93.39	93.71	91.56

(3) 居宅介護支援事業所はるの（達成率）（%）

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
101.88	103.75	103.75	86.25	89.38	89.38	88.75	90.63	91.88	86.88	85.63	86.25	92.03

(4) デイサービスセンターはるかぜ（稼働率）（%）

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
82.22	82.90	81.11	76.99	79.46	86.00	87.20	86.78	85.16	80.00	83.10	86.24	83.10

(5) デイサービスセンターそよかぜ（稼働率）（%）

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
80.28	72.85	64.72	68.82	75.27	75.56	79.57	70.83	68.55	67.47	66.07	66.13	71.34

(6) うららかキッズガーデン（稼働率）（%）

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
63.64	63.64	81.82	81.82	81.82	81.82	81.82	100	100	100	100	100	86.36

11 研修参加状況

(1) 特別養護老人ホームうららか春陽荘（短期入所生活介護）

月	日	開催地	研 修 会 名	研 修 内 容	主 催 者	参加 人数
4	2	春陽荘	平成 30 年度事業計画 について	諸規定変更及び職員 倫理	うららか春陽荘	66
	19	高知市	高知県老人福祉施設協 議会 総会・研修会	介護報酬改定を読み 解く	高知県老人福祉施 設協議会	1
5	25	高知市	中央Bブロック栄養士 勉強会	平成 30 年度介護報酬 改定の影響について	高知県老人福祉施 設協議会	1
	29	春陽荘	内部研修	褥瘡について	褥瘡バスターズ委 員会	44
6	5	高知市	高知家ノーリフティン グケア宣言	本県におけるノーリ フティングケアの現 状と取組報告	日本ノーリフト協 会高知支部	1

	4. 11	春陽荘	ケア向上委員会	身体拘束廃止、虐待防止	ケア向上委員会	69
	14	高知市	中央Bブロック生活相談員・介護支援専門員合同勉強会	身よりのない入所者の対応	高知県老人福祉施設協議会	5
	14. 18	春陽荘	内部研修	救急法（一次救命・AED）について	うららか春陽荘	65
	25～27	岡山市	ユニットケア研修	ユニットリーダー研修（講義）	高知県高齢者福祉課	1
	25・28	平成福祉 春陽荘	内部研修	感染症対策について ・食中毒・手指消毒	（社）長い坂の会	49
	30	高知市	ふくし機器展バリアフリーフェスティバル	足のトラブルを予防する正しい靴の選び方	高知県社会福祉協議会	2
7	1	高知市	ふくし機器展バリアフリーフェスティバル	歯と足の指からつくる元気なカラダ学	高知県社会福祉協議会	1
	4～5	徳島市	四国老人福祉施設関係者研究大会	未来をつくる地域共生社会をめざして	高知県老人福祉施設協議会	3
	10～12	岡山市	ユニットケア研修	ユニットリーダー研修（講義）	高知県高齢者福祉課	2
	17～20	鳥取県 西伯郡	ユニットケア研修	ユニットリーダー研修（実習）ゆうらく	高知県高齢者福祉課	1
	18	春陽荘	内部研修	事故事例検討会	うららか春陽荘	18
	22	岡山市	セミナー	口を開けない認知症高齢者の方の食支援アプローチ	全国高齢者施設看護師会	3
	25	春陽荘	内部研修	新人研修Ⅰ	（社）長い坂の会	5
8	6～7	高知市	第二種衛生管理者受験準備講習会	労働衛生、労働生理	高知県労働基準協会連合会	3
	28～31	鳥取県 米子市	ユニットケア研修	ユニットリーダー研修（実習）よなご幸朋苑	高知県高齢者福祉課	1

	25～ 27	高知市	救急法講習	救急員養成	高知赤十字病院	1
	25	高知市	サマーカレッジ2018	15年の歩みそして 15年後を見据えてど のような取り組みを するのか	(社)秋桜会特別養 護老人ホーム コ スモスの里	3
	29	春陽荘	内部研修	事故事例検討会	うららか春陽荘	22
	30	平成福 祉社	内部研修	倫理(法人職員とし て)	(社)長い坂の会	43
9	4～7	高知市	ユニットケア研修	ユニットリーダー研 修 (実習)絆の広場	高知県高齢者福祉 課	1
	5	高知市	ケアステップアップ地 域研修	知っておきたい福祉 の基礎知識	高知県社会福祉協 議会	2
	19	高知市	平成30年度認定調査 員現任研修会	認定調査と審査会 の役割について	高知県高齢者福祉 課	2
	9/25 11/1 11/6 12/20	高知市	平成30年度 高知家 統一基本セミナー	地域を知る組織とチ ーム権利擁護介護予 防防災	高知家統一基本ケ ア普及委員会事務 局	2
	21	高知市	機能訓練指導員・介護 職員・看護職員合同研 修会	機能訓練指導員の役 割と他職種との連携 について	高知県老人福祉施 設協議会	2
	24	高知市	ノーリフティング人材 育成セミナー	ノーリフティング安 全衛生研修	日本ノーリフト協 会高知支部	1
	26～ 27	高知市	高知県老施協事務職員 研修会	監査・介護報酬改定・ ICT	高知県老人福祉施 設協議会	1
10	3	高知市	平成30年度施設内感 染対策研修会	施設内における感染症 対策	高知市保健所	2
	11～ 12	大坂	看護職のためのユニッ トケア研修	ユニットケアの理念・ 具体的なケアの在り 方を理解する	日本ユニットケア 推進センター	2
	12	高知市	安全運転管理者講習会	道路交通法第108条に 基づく講習会	高知県公安委員会	2
	16	四万十 町	施設見学(障害者支援 施設オイコニア)	施設概要、献立作成・ 発注方法、昼食時に様	うららか春陽荘	3

				子		
	19	高知市	中央Bブロック栄養士勉強会	補助食で困ったときに	高知県老人福祉施設協議会	2
	23	高知市	調理講習会	治療食でも美味しくフレンチ	高知県 食と栄養の会	2
	26	春陽荘	内部研修	車椅子セッティング講習会	うららか春陽荘	18
	29	平成福祉	内部研修	冬場の感染症対策	(社) 長い坂の会	21
	30	春陽荘	内部研修	冬場の感染症対策	(社) 長い坂の会	56
	10/30 ～ 11/1	札幌市	全国老人福祉施設研究会議 北海道会議	介護・福祉が未来を拓く	高知県老人福祉施設協議会	2
11	1	高知市	高知家統一基本セミナー	地域を知る組織とチーム	高知家統一基本ケア普及委員会事務局	1
	7	徳島市	見学研修会	大塚製薬の健康への取組	高知県 食と栄養の会	1
	16・21	春陽荘	内部研修排泄ケア研修	排便時の対応について	うららか春陽荘	28
	7・12	春陽荘	内部研修	ノロウイルスの処理方法	うららか春陽荘	51
	19	高知市	民間社会福祉施設職員退職手当共済事業運営委員会	共済契約約款の一部改正について	高知県社会福祉協議会	1
	20～21	北九州市	全国老人福祉施設大会 北九州大会	介護・福祉が未来を拓く	全国老人福祉施設協議会	2
	27	春陽荘	内部研修	交通安全講習	(社) 長い坂の会	40
12	4	春陽荘	内部研修	交通安全講習	(社) 長い坂の会	31
	4～5	高知市	四国ブロックカンントリーミーティング	介護・福祉が未来を拓く	高知県老人福祉施設協議会	2
	6	高知市	食と栄養の会研修	健康寿命の延伸	高知県食と栄養の会	1
	8～9	高知市	高知県防災士養成講座	地域や事業所での防災活動の担い手となる「消防士」の養成	高知県危機管理部	1

	9	広島市	拘縮が強い利用者の進行させない	拘縮予防と有効なポジショニング	全国高齢者施設看護師会	3
	9	徳島市	重要4事業多角的視点理論運営セミナー	サ高住等住宅系・グループホーム・小規模多機能・ショートステイの重要4事業の集客の仕方	全国デイサービス事例研究所関西元気ネットワーク	2
	13	高知市	働き方改革セミナー	見守りセンサー活用による働き方改革セミナー	リコージャパン(株)	3
1	23	高知市	高知市と高知県老人福祉施設協議会との意見交換会	今後の高齢者福祉施設を展開するために介護現場からの忌憚のない意見や最近の情報を交換する	高知県老人福祉施設協議会	1
	23～25	春陽荘	内部研修	身体拘束廃止、虐待防止研修	春陽荘 ケア向上委員会	28
	25	高知市	中央Bブロック栄養士勉強会	各施設での学会分類2013の活用状況について	高知県老人福祉施設協議会	1
2	3	高知市	高知家ノーリフティングフォーラム	高知県の福祉・介護職場における就労環境の改善に向けて	日本ノーリフト協会高知支部	9
	5	高知市	高知刑務所見学会	矯正施設退所者の支援について	高知県社会福祉協議会	1
	8	やすらぎの家	内部研修	ハラスメント防止規程の制定に伴う説明会	(社)長い坂の会	22
	12	高知市	高知県老人福祉施設協議会中央A・中央Bブロック合同施設長会	情勢報告等	高知県老人福祉施設協議会	1
	13	高知市	高齢者虐待防止・権利擁護研修	虐待を起こさない組織づくりと管理職の役割	高知県社会福祉協議会	2
	19	高知市	社会福祉施設総合保険制度説明会	社会福祉施設総合保険制度について	高知県社会福祉法人経営者協議会	1

3	1～29	春陽荘	内部研修	身体拘束廃止、虐待防止研修	春陽荘 ケア向上委員会	52
	5	やすらぎの家	内部研修	ハラスメント防止規程の制定に伴う説明会	(社) 長い坂の会	3
	20	高知市	高知県老施協 介護支援専門員・生活相談員研修会	介護報酬改定後の新設加算の検証について	高知県老人福祉施設協議会	1
	21	高知市	高知県老人福祉施設協議会栄養士・介護職員・デイサービス合同研修会	認知症高齢者における栄養管理と看取り次期の食の在り方	高知県老人福祉施設協議会	2
	27	高知市	第1回春野地域セミナー	高知県の福祉・介護を取り巻く現状と人材の確保・定着策について	高知県地域福祉部地域福祉政策課	8

(2) 居宅介護視線事業所はるの

月	日	開催地	研 修 会 名	研 修 内 容	主 催 者	参加人数
6	2～3 8～9 23～ 24	高知市	高知県介護支援専門員更新(専門研修)	研修課程Ⅰ	高知県社会福祉協議会	1
	20	高知市	認知症介護基礎研修	認知症の人の理解と対応の基本	高知県高齢者福祉課	1
	23～ 24	高知市	主任介護支援専門員研修	スーパービジョンについて学ぶ	高知市居宅介護支援事業所協議会	2
7	6 ～7	高知市	高知県介護支援専門員更新(専門)研修	研修課程Ⅰ	高知県社会福祉協議会	1
	20	高知市	南部地域ケアカンファレンス	生活困窮者のワンストップサービス	南部地域ケアカンファレンス実行委員会	3
9	18～ 19 25～	高知市	高知県介護支援専門員更新(専門)研修	研修課程Ⅱ	高知県社会福祉協議会	1

	26					
	20	高知市	国吉病院地域連携交流会	嚥下障害への消火器外科的アプローチ	国吉病院	2
	24	高知市	ケアマネジメント基礎研修	自立とＱＯＬ向上について	高知市居宅介護支援事業所	2
	28	高知市	西部地域医療カンファレンス	被災時の現実	西部地域ケアカンファレンス実行委員会	2
10	12	高知市	高知市における「入・退院時の引継ルール」の運用に関する「第２回点検協議」について	高知市における「入・退院時の引継ルール」の運用後の病院及びケアマネジャーを対象とするアンケート調査の結果報告	高知市高齢者支援課 高知市健康福祉総務課	2
	19	高知市	北部地域医療カンファレンス	在宅医療今後の方向性	北部地域医療カンファレンス実行委員会	3
	26	高知市	南部地域ケアカンファレンス	在宅における服薬サポートと薬剤管理支援	南部地域ケアカンファレンス実行委員会	4
11	28	高知市	養護者による高齢者虐待早期発見・対応におけるチームアプローチ	専門職としての立ち位置、役割を考える	高知市高齢者支援課	2
12	1～2	田野町	高知県防災士養成講座	地域や事業所での防災活動の担い手となる「消防士」の養成	高知県危機管理部	1
	2	高知市	四国ブロック支部大会	いろいろなかたちの看取り 介護支援専門員の役割	日本介護支援専門員協会	1
	14	高知市	相談援助応用研修	生活の包括的理解に向けた見方	高知県社会福祉協議会	2
2	5	高知市	高知刑務所見学会	矯正施設退所者の支援について	高知県社会福祉協議会	1
3	3	高知市	高知県高齢者こころのケアサポーター養成研修	基礎研修の振り返り ロールプレイ演習	高知県社会福祉協議会	1

	27	高知市	第1回春野地域セミナー	高知県の福祉・介護を取り巻く現状と人材の確保・定着策について	高知県地域福祉部 地域福祉政策課	4
--	----	-----	-------------	--------------------------------	---------------------	---

(3) デイサービスセンターはるかぜ

月	日	開催地	研 修 会 名	研 修 内 容	主 催 者	参加人数
6	20	高知市	認知症介護基礎研修	認知症の人の理解と対応の基本	高知県高齢者福祉課	1
7	4～5	徳島市	四国老人福祉施設関係者研究大会	未来をつくる地域共生社会をめざして	高知県老人福祉施設協議会	2
8	18	高知市	デイサービス&デイケア稼働率アップ生き残りセミナー	デイ運営既成概念からの脱却	全国デイサービス事例研究所	2
	21	高知市	中堅職員ファーストステップ研修	中堅職員としての役割認識と責任感を身につける	高知県社会福祉協議会	1
9	27	高知市	中堅職員ステップアップ研修	後輩職員の指導・育成について学ぶ	高知県社会福祉協議会	1
	9/25～ 9/28 10/9～ 10/10 10/12 ～11/8 11/20	高知市	認知症介護研修 【実践者研修】	◎認知症ケアの基本的視点と理念 ◎アセスメントとケアの実践の基本Ⅰ・Ⅱ ◎施設実習 ◎報告会	高知県高齢者福祉課	1
10	26	高知市	南部地域ケアカンファレンス	在宅における服薬サポートと薬剤管理支援	南部地域ケアカンファレンス実行委員会	1
2	13	高知市	高齢者虐待防止・権利擁護研修	虐待を起こさない組織づくりと管理職の役割	高知県社会福祉協議会	1

(4) デイサービスセンターそよかぜ

月	日	開催地	研 修 会 名	研 修 内 容	主 催 者	参加人数
7	10	高知	認知症介護基礎研修	認知症の人の理解と対応	高知県高齢者福祉課	1

		市		応の基本	課	
10	26	高知市	南部地域ケアカンファレンス	在宅における服薬サポートと薬剤管理支援	南部地域ケアカンファレンス実行委員会	1
1	1/22～ 1/25 2/6～ 2/7 2/9～ 3/8 3/20	高知市	認知症介護研修 【実践者研修】	◎認知症ケアの基本的視点と理念 ◎アセスメントとケアの実践の基本Ⅰ・Ⅱ ◎施設実習 ◎報告会	高知県高齢者福祉課	1

(5) うららかキッズガーデン

月	日	開催地	研 修 会 名	研 修 内 容	主 催 者	参加人数
4	6	高知市	第1回乳児（1歳未満）保育研修	心身ともに健やかに育んでいくために	高知市保育幼稚園課	1
6	4	高知市	プール衛生・安全管理講習会	プールの安全管理について	高知市保育幼稚園課	1
	28	高知市	アレルギー対応研修会	アレルギーとアナフィラキシーの基礎知識	高知市保育幼稚園課	1
7	3	高知市	保育所給食関係職員研修会	保育所給食における衛生管理	高知市保育幼稚園課	1
	9	高知市	高知市乳児（1歳未満児）保育研修 第2回	乳幼児がかかりやすい病気と観察のポイントや応急処置について	高知市保育幼稚園課	1
8	2	高知市	平成30年度防災教育研修会	防災教育の推進について	高知市保育幼稚園課	1
9	28	高知市	保育施設における感染症対策研修会	感染症に関する基礎知識や予防方法	高知市保育幼稚園課	1

[3] 在宅介護センターわかくさ関連事業

1 デイサービスセンター くつろぎの家

1日当たりの平均利用数は約23名と目標である25名に届かなかった。要因として1年を通して入院者の調整不足や夏冬場の老人保健施設の利用を予測して新規ご利用者の調整不足がご利用者数の減少になったと考える。今後は定期的な居宅への訪問を行い、入院者等が増加する時期を見据え、新規利用者の受け入れ、入院者等の再開に向けた細かな調整を行いつつ、食事摂取や水分補給の励行、感染症予防対策等の徹底を実施する。

サービスとして、利用者の状況に応じた個々の目標を把握し、自立支援に向けた支援を行った。機能面では在宅生活が継続できるように生活リハビリを中心に身体機能の維持・向上に努め、ケアワーカーによるリハビリ体操やかみかみ百歳体操等の機能維持訓練を行なった。活動面では個々の趣味を汲み取り、共通できるプランターでの野菜作り、調理やおやつ作り、貼り絵、折り紙、塗り絵、編み物、将棋、花札等の身近な活動中心に行った。また、集団レクリエーションでは、口腔機能の維持向上に繋がる体操のほか、他者との交流が深まり楽しみをもって行えるよう配慮した活動を通して、心身共に活性化を図ることができた。

介護ミスや見守り不足により、防げる介護事故が複数発生した。職員の予防意識と注意力の向上を図るためにも、発生した事故を活用し、介護事故予防のリスクマネジメントに努め、原因分析力と対応力の向上を行う必要がある。

(1) 行事等

4月	バイキング・各種サークル活動
5月	母の日（おやつクッキング）・バイキング・各種サークル活動・朝倉第二小学校交流
6月	父の日（おやつクッキング）・バイキング・各種サークル活動
7月	バイキング・各種サークル活動 ・よさこい鳴子踊り来荘
8月	よさこい鳴子踊り来荘・バイキング・各種サークル活動
9月	敬老会・バイキング・各種サークル活動
10月	バイキング・各種サークル活動
11月	運動会、バイキング・各種サークル活動
12月	年忘れ会・バイキング・各種サークル活動
1月	バイキング・各種サークル活動
2月	節分・バイキング・バレンタインデー・各種サークル活動
3月	バイキング・ホワイトデー・各種サークル活動

(2) 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	4	3	4	4	5	4	4	5	4	8	8	6	59
要支援2	23	27	23	31	22	33	40	33	36	28	29	30	355
小計	27	30	27	35	27	37	44	38	40	36	37	36	414
1日平均	0.9	1.0	0.9	1.1	0.9	1.2	1.4	1.3	1.3	1.2	1.3	1.2	1.1
要介護1	243	222	192	188	255	234	228	228	216	166	160	169	2,501
要介護2	183	218	186	172	178	157	192	200	191	198	164	179	2,218
要介護3	141	140	149	132	134	128	163	119	138	108	114	89	1,555
要介護4	76	82	78	75	56	60	63	89	90	84	70	109	932
要介護5	71	72	56	45	35	20	31	41	77	74	68	81	671
小計	714	734	661	612	658	599	677	677	712	630	576	627	7,877
1日平均	23.8	23.7	22.0	19.7	21.2	20.0	21.8	22.6	23.0	20.3	20.6	20.2	21.6
平均介護度	2.4	2.4	2.4	2.4	2.1	2.1	2.2	2.3	2.5	2.5	2.5	2.6	2.4
合計	741	764	688	647	685	636	721	715	752	666	613	663	8,291
1日平均	24.7	24.6	22.9	20.9	22.1	21.2	23.3	23.8	24.3	21.5	21.9	21.4	22.7

(3) 研修報告（内部・外部）

	内部研修・勉強会	外部研修
4月	勉強会（接遇） 伝達研修	
5月	勉強会（介護技術） 伝達研修	新任職員研修ステップ1（2名）
6月	法人伝達研修（ユマニチュード） センター新規採用職員研修 法人研修（食中毒・感染症対策） 伝達研修	新任職員研修ステップ1（2名）
7月	法人新人研修Ⅰ 勉強会（事故事例検討） 伝達研修	四国老人福祉施設関係者研究大会（2名）
8月	法人研修（倫理） 勉強会（ノーリフティングケア） 伝達研修	第1回高知県中間管理職育成向上研修（1名）
9月	勉強会（救急法） 伝達研修	認知症介護実践者研修座学（1名）
10月	法人研修（感染症・ノロ・インフルエンザ） 勉強会（吐物の処理方法実技） 伝達会	施設内感染症対策研修会（1名） 認知症介護実践者研修座学（2名） 新任職員研修ステップ2（2名） 第1回高知県中間管理職育成向上研修（1名）

11月	勉強会（防災について） 伝達研修会	認知症実践者研修座学（1名） 認知症実践者研修実習報告（1名）
12月	法人新人研修Ⅱ	四国カントリーミーティング（2名） 認知症実践者研修実習報告（1名）
1月	インフルエンザ蔓延予防対策として自粛	
2月	勉強会（身体拘束・虐待・不適切ケア） 伝達研修	
3月	センター新規採用職員研修 勉強会（認知症グループワーク） 伝達研修会	新任職員研修ステップ3（2名）

2 デイサービスセンターわかくさの家

サービスとして、住み慣れた地域での生活の継続とご利用者の持つ世界観を想像し、利用者個々に合ったサービスを心掛けると共に、四季を感じる創作活動やおやつ作りを計画・実行し、職員と一緒に楽しみ、家庭的な雰囲気を作ることに努めた。また、家族の連携と家族間交流を図るため、デイ見学会を3日間実施し、利用時の過ごし方に加え、事業所でのサービス内容や取組等を伝え、家族の想いを知ることができたが、今後、職員と家族、また家族間同士の交流の場となるよう、どのように計画するかが課題である。

研修では、様々な研修に参加させて頂いた事により、他県の同業者との交流や取り組み、最新の福祉機器を知り、センター内での伝達研修と、最新機器のデモンストレーションによりセンター全体で情報共有を行うことが出来た。今後も継続し、スキルアップや認知症ケアに関する研修は勿論だが、ICT・IoT等の未来を見据えた研修への参加も必要である。

事業運営は、昨年度末からの稼働率を維持し、平成30年度は安定した稼働とサービスを提供することができた。経営を考慮し、稼働率の維持・向上を図るため、利用中止時にはセンター内「居宅あさくら」と外部の居宅介護支援事業所へ連絡し、現在の状況等を随時行い、利用者の確保に努めた。

サービスの充実として、利用者の心に配慮した度重なる迎への訪問や、同居する家族に配慮し、利用を休まれた際の対応等、担当ケアマネ・家族と調整を行い、利用体制と関係構築を行い、稼働も意識しつつ、利用者へのサービス中心であることに努めた。また、体験利用を活用し、利用される方の不安感から落ち着ける場所、安心へと認識して頂けるまで続け、利用者・家族の信頼構築の為、認知症対応型デイには必要なことであり、今後も継続して行く。

（1）行事等

4月	誕生会・壁画作り・生け花
----	--------------

5月	誕生会・クッキング（フレンチトースト）
6月	壁画作り
7月	誕生会・わかかさ納涼祭・流しソーメン
8月	誕生会・千羽鶴作り・スイカ割り
9月	誕生会・敬老会
10月	誕生会・壁画作り・月見団子作り・朝倉第二小学校音楽会観覧・デイ見学会
11月	誕生会・わかかさ美術展
12月	誕生会・年忘れ会・餅つき・クッキング（プリンアラモード）
1月	誕生会・壁画作り
2月	誕生会・壁画作り・クッキング（クレープ）
3月	誕生会・壁画作り

（２）要介護利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	36	45	53	43	45	36	48	46	41	51	46	47	537
要介護2	80	81	68	63	66	34	28	34	27	26	23	24	554
要介護3	32	38	78	37	49	53	58	60	59	67	71	32	634
要介護4	37	47	43	47	47	63	71	69	43	45	44	72	628
要介護5	21	23	21	21	21	20	21	20	41	39	34	39	321
合計	206	234	263	211	228	206	226	229	211	228	218	213	2,673
平均	9.8	10.4	10.3	9.6	9.9	10.3	9.8	10.4	10.0	9.9	10.9	10.8	10.2
平均介護度	2.3	2.4	2.3	2.5	2.5	2.4	2.6	2.5	2.6	2.7	2.7	2.7	2.5

（３）研修報告（内部・外部）

	内部研修・勉強会	外部研修
4月	勉強会（接遇） 伝達研修	
5月	勉強会（介護技術） 伝達研修	
6月	法人伝達研修（ユマニチュード） センター新規採用職員研修 法人研修（食中毒・感染症対策） 伝達研修	新任職員研修ステップ1（1名）
7月	法人新人研修Ⅰ 勉強会（事故事例検討） 伝達研修	四国老人福祉施設関係者研究大会（1名）
8月	法人研修（倫理） 勉強会（ノーリフティングケア）	認知症心理カウンセラー養成講座（1名）

	伝達研修	
9月	勉強会（救急法） 伝達研修	
10月	法人研修（感染症・ノロ・インフルエンザ） 勉強会（吐物の処理方法実技） 伝達研修	国際福祉機器展（1名） 新任職員研修ステップ2（1名）
11月	勉強会（防災について） 伝達研修	全国老人福祉施設大会（1名）
12月	法人新人研修Ⅱ	四国カントリーミーティング（1名）
1月	インフルエンザ蔓延予防対策として自粛	
2月	勉強会（身体拘束・虐待・不適切ケア） 伝達研修	
3月	センター新規採用職員研修 勉強会（認知症グループワーク） 伝達研修	新任職員ステップ3（1名） 運営推進会議

3 小規模多機能型居宅介護わかくさ

平成 30 年度は、1 日平均約 3.3 名と宿泊者の数も上がり、昨年度以上に目標達成する事が出来た。その要因として、登録解除から新規利用登録までの期間を縮小するため、複数の依頼先との密な連絡を行い、早期登録に向け、面接・サービス調整等を行った。しかし、長期入院等により登録解除を余儀なくされた家族等には、その後の生活に不安を持たれることが多く、来年度は登録解除後の相談受付等を強化し、不安軽減を図り、新規利用の受付のほか、再利用へと繋がるサービス展開に努める。

サービスとして、近年では、生活に拘りを持った世代の利用者が増えつつあり、自由度の強い小規模多機能型サービスの内容に注目され始めているが、まだまだ事業所として幅広く、柔軟な対応には不十分と感じるが多い。それらを踏まえ、外部研修への参加も強化し、より多くの職員が刺激と意識向上が図れるよう、体制を整える必要がある。また、本年度は介護事故が多く、そのほとんどが予防可能な事故であり、ヒヤリハット等の活用不足が要因と思われる、予防対策強化が必須である。

運営推進会議にて、地域の方々から、「明るく気さくな職員ばかりで他施設とは雰囲気が違う。地域の行事にも沢山参加してくれる。有難い。」との評価を頂いた。今後も継続して行事等に参加し、全職員が地域と関わられるよう努めたい。

(1) 行事

4月	居酒屋 よつ葉カフェ 誕生会 お花見ドライブ 買い物（生活支援プログラム）	10月	居酒屋 よつ葉カフェ 買い物（生活支援プログラム） 運営推進会議
5月	居酒屋	11月	居酒屋

	よつ葉カフェ 誕生会 買い物（生活支援プログラム） 平成福祉専門学生見学・交流 運営推進会議		よつ葉カフェ 誕生会 歌唱ボランティア 平成福祉専門学校学園祭見物 わかくさ美術展 朝倉第二小音楽祭 招待 運営推進会議
6月	居酒屋 よつ葉カフェ 誕生会 買い物（生活支援プログラム） 朝倉第二小学校4年生交流 歌唱ボランティア慰問 鶴来巣愛町作業・センター清掃	12月	居酒屋 よつ葉カフェ 誕生会 年忘れ会 もちつき 高知大吹奏楽部慰問 鶴来巣町内会忘年会
7月	誕生会 在宅介護センターわかくさ納涼祭 運営推進会議	1月	誕生会 初詣 高知市実地指導
8月	居酒屋 よつ葉カフェ 誕生会 よさこい踊り子来演 針木夏祭り	2月	居酒屋 よつ葉カフェ 誕生会
9月	居酒屋 よつ葉カフェ 誕生会 敬老会 防災訓練 運営推進会議	3月	居酒屋 よつ葉カフェ 誕生会 桜花見ドライブ 防災訓練

(2) 介護度別利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護1	5	6	5	5	5	5	4	7	4	5	5	6	62
要介護2	11	10	10	10	10	10	10	9	10	10	9	11	120
要介護3	6	6	5	5	5	5	5	5	6	7	6	4	65
要介護4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	3	4	36
要介護5	5	5	6	6	6	6	6	5	5	5	3	3	61
計	30	30	29	29	29	29	28	29	28	29	26	28	344
平均介護度	2.7	2.7	2.8	2.8	2.8	2.8	2.9	2.7	2.8	2.7	2.6	2.5	2.7

(3) 機能別利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
通い	439	473	404	411	460	419	446	417	441	383	363	436	5,092
訪問	483	625	512	666	601	627	584	544	594	675	591	698	7,200
宿泊	105	81	68	80	101	100	111	104	115	105	90	129	1,189
計	1,027	1,179	984	1,157	1,162	1,146	1,141	1,065	1,150	1,163	1,044	1,263	13,481

(4) 研修報告（内部・外部）

	内部研修・勉強会	外部研修
4月	勉強会（接遇） 伝達研修	
5月	勉強会（介護技術） 伝達研修	新任職員研修ステップ1（1名）
6月	法人伝達研修（ユマニチュード） センター新規採用職員研修 法人研修（食中毒・感染症対策） 伝達研修	新任職員研修ステップ1（1名） 自立を目指すケア研修会（1名：1回目）
7月	法人新人研修Ⅰ 勉強会（事故事例検討） 伝達研修	四国老人福祉施設関係者研究大会（1名）
8月	法人研修（倫理） 勉強会（ノーリフティングケア） 伝達研修	自立を目指すケア研修会（1名：2回目）
9月	勉強会（救急法） 伝達研修	自立を目指すケア研修会（1名：3回目）
10月	法人研修（感染症・ノロ・インフルエンザ） 勉強会（吐物の処理方法実技） 伝達会	国際機器展 認知症実践者研修（1名） 新任職員研修ステップ2（2名）
11月	勉強会（防災について） 伝達研修会	全国老人福祉施設大会（1名） 認知症実践者研修（1名） 自立を目指すケア研修会（1名：4回目）
12月	法人新人研修Ⅱ	四国カントリーミーティング（1名） 認知症実践者研修（1名）
1月	インフルエンザ蔓延予防対策として自粛	
2月	勉強会（身体拘束・虐待・不適切ケア） 伝達研修	
3月	センター新規採用職員研修 勉強会（認知症グループワーク） 伝達研修会	新任職員研修ステップ3（2名） 運営推進会議

4 くつろぎの家 訪問入浴サービス

新規利用の依頼では、末期がんなどの終末期の方も多く、利用開始後短期間で終了されるケースや、体調悪化により入院し、各関係機関に連絡を行い、状況確認等を行うが利用中止となるケースが多い。また、安定経営に向け、居宅などに連絡し利用を募るが、曜日や時間指定等により調整が難しいケースや、受入後に利用者の急な体調悪化に伴い利用開始には至らないケースが複数であった。新規利用者は24名、前年度に続き障害者委託契約は2名の新規契約があった。新規依頼等の問合せは66件あったが、先約がある等により利用枠を確保できない事や利用中の方の回数増を優先もあり、残念ながら42件が希望に添えない状況であった。

今後、より一層各関係機関との連携を密に取りながら利用者に合わせたより良いサービスを提供すると共に、短期利用を希望されるご利用者については、より柔軟な方法で受け入れが出来る体制を整え、同種他事業所とのサービスの違いをアピールしつつ利用者増加に繋げたい。

(1) 介護度別利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援1													
要支援2													
要介護1													
要介護2	1	5	5	2									13
要介護3	10	4		2	3	1	2	3	2	2	12	11	52
要介護4	11	10	15	16	21	16	17	18	18	18	14	19	193
要介護5	63	69	68	61	72	59	67	62	55	52	42	45	715
計	85	88	88	81	96	76	86	83	75	72	68	75	973
平均介護度	4.6	4.6	4.7	4.7	4.7	4.8	4.8	4.7	4.7	4.7	4.4	4.5	4.7
障害者	4				3	4	5	4	4	2	1	2	29
合計	89	88	88	81	99	80	91	87	79	74	69	77	1,002
1日平均	4.5	4.2	4.2	3.9	4.3	4.4	4.1	4.1	4.2	3.9	3.6	3.9	4.1

5 高知市在宅支援センター あさくら (居宅介護支援事業所)

ケアマネジメントでは、平成30年度の計画に基づく目標に対し、プランニングでは利用者の自立支援を念頭におき、介護者の身体的・精神的負担が軽減できるケアプランが作成出来ている。利用者一人一人を十分にアセスメントし、主治医やサービス事業所との情報共有を行いながら、個別性の高いマネジメントが出来ている。また、要検討ケースに関しては、週1回開催する事業所内での定例会にて、他のケアマネの

意見等を参考にし、マネジメントの方向性と確認を行うことができた。さらに、職員個々のスキルアップを目指し、法人内研修や外部研修へ積極的に参加し、事業所内での伝達報告することで情報共有を行えた。

他機関との連携については、事業所内で行う、毎日のミーティングと週一回の定例会を開催しており、新たな情報等を積極的に収集し、報告・伝達等を行い、様々な情報等を把握・共有する事ができていた。また、医療関係機関や行政、地域包括支援センターとも連携を図り、情報の入手や困難ケースの対応等を協力した対応も可能となった。センター内では、「あさくら出張所」とも連携を図り、積極的な受け入れを行い、法人内事業所間での連携も図ることができた。事業所内での連携では申し送りを十分に行い、緊急時に対応出来る様に24時間体制で連絡が取れる体制を設定出来ていた。

地域との関わりとして、センター内で開催されている認知症カフェに参加し、地域へ発信し関わり、町内会行事等にも積極的に参加し交流を図る事ができている。

総評として、ケアマネジメント・連携・地域での関わりに関し、利用者一人一人の個別性をアセスメントし、柔軟な対応が事業所全体で協力しできたと考える。運営面に関しては、6名体制でスタートしたが、利用者数が伸び悩み増数する事が出来なかった。利用者ケースでは、入院者、施設入所者も多く見られ、やはり時代の流れなのか要介護2～4の家族の介護負担増大による介護疲れが顕著に見られ、有料老人ホームや小規模多機能型居宅介護等に流れざるえないケースが多い。在宅サービスの中でも通所・訪問系サービスで在宅生活を継続している方は老健施設の利用が多く、老健施設自体も回転率を上げてきている為に利用ニーズが増えてきているのも現状である。

(1) 介護度別請求件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護1	69	61	57	60	61	59	56	56	49	54	55	60	697
要介護2	59	58	59	58	58	61	59	58	59	55	51	52	687
要介護3	24	25	27	24	24	25	26	26	23	26	25	25	300
要介護4	13	14	14	12	11	13	16	18	17	16	14	14	172
要介護5	6	6	5	6	5	5	5	5	6	7	6	6	68
計	171	164	162	160	159	163	162	163	154	158	151	157	1,924
平均介護度	2.0	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	2.1	2.1	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1
予防・総合	37	38	36	33	32	28	31	30	30	30	29	28	382
合計	208	202	198	193	191	191	193	193	184	188	180	185	2,306

(2) 研修報告（内部・外部）

	内部研修・勉強会	外部研修
4月	勉強会（接遇） 伝達研修	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修 国吉病院地域連携交流会
5月	勉強会（介護技術） 伝達研修	難病学習会 高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修 介護支援専門員定期総会
6月	法人伝達研修（ユマニチュード） 法人研修（食中毒・感染症対策） 伝達研修	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修 西部地域医療カンファレンス
7月	勉強会（事件事例検討） 伝達研修	難病学習会 高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修 複数居宅共同事例検討会 防災研修会 ケアマネジメント研修会
8月	法人研修（倫理） 勉強会（ノーリフティングケア） 伝達研修	西部地域医療カンファレンス 高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修 対人援助技術基礎研修 緩和ケア事例検討会
9月	勉強会（救急法） 伝達研修	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修 主任ケアマネ研修 ケアマネジメント基礎研修 西部地域医療カンファレンス 国吉病院地域連携交流会
10月	法人研修（感染症・ノロ・インフルエンザ） 勉強会（吐物の処理方法実技） 伝達会	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修 多職種連携研修 介護支援専門員更新研修 若年性認知症研修会
11月	勉強会（防災について） 伝達研修会	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修 国吉病院地域連携交流会 高齢者虐待予防研修会
12月	インフルエンザ蔓延予防対策として自粛	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修 リハビリテーション研究大会 介護支援専門員協会四国ブロック大会 ケアマネジメント研修会 定期巡回・随時対応型訪問介護看護研修会
1月	インフルエンザ蔓延予防対策として自粛	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修
2月	勉強会（身体拘束・虐待・不適切ケア） 伝達研修	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修 西部地域医療カンファレンス 国吉病院地域連携交流会 ケアマネジメント研修
3月	勉強会（認知症グループワーク） 伝達研修会	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修 多職種連携研修 若年性認知症フォーラム 成年後見セミナー 難病学習会

6 高知市西部地域高齢者支援センター あさくら出張所

地域の会に出向き、地区内の関係団体との情報交換、地域の身近な「相談窓口」としての出張所の啓発を行い、介護予防活動に住民や関係機関と協働で取り組むことに努めた。

関係機関や住民から個別相談をしていただける関係作りを心がけ、相談のあったケースに関しては、管轄高齢者支援センターや居宅介護支援事業所、医療機関、民生委員等と連携を図り、適切な支援を心掛けた。

本年度、高齢者支援センター出張所の機能強化に関する高知市の方向性が決定し、令和 2 年度には西部地域の出張所が地域包括支援センターへ業務内容変更予定である。今後の市や高齢者支援センター、他出張所の動向を情報収集していき、法人と相談していくことや相談員としての資質向上により一層努めていく必要性を感じている。

(1) 地域活動

地域共生社会の実現に向け、地域住民の支え合いを関係機関と協働し支援したり、地域コミュニティ会議の朝倉まちづくりの会や地域内連携協議会、医療生協、高知市社会福祉協議会と共に地域課題への取り組みを検討している。

地域の高齢者の集いの場（民児協主催敬老会、百歳体操、サロン等）に参加し地域の方と情報交換、出張所の役割広報、機会を捉えた健康・介護予防の啓発活動を行い、新たな交流の場作りに地域住民や関係機関と協働し取り組んでいる。その中で、高知市社会福祉協議会へ寄贈された朝倉己の個人宅を地区の集会拠点とする取り組み（後に「クルム」と名称決定）に関わらせていただくことができた。また、宅老所たんぽぽ朝倉が、開催家屋の契約解除に伴い H31 年 2 月末で閉所となるため、新たな場所での開催に向け支援をしている。その他、男性主体の料理教室開催への支援を行ったり、朝倉地区内の 2 カ所の認知症カフェの継続・広報の支援を行った。認知症カフェは課題解決に向けた取り組みが今後必要と感じており、研修会に参加し学んだことを担当者と共有し、認知症カフェが充実した取り組みとなるよう今後も支援していきたい。百歳体操の新規開催会場立ち上げは、2 カ所を支援できた。

認知症サポーター養成講座は年度内 9 回開催。西部地域高齢者支援センターや他出張所、高知市社会福祉協議会と連携し、認知症の方が住みなれた地域で安心した生活が継続できるよう啓発に取り組んだ。

昨年初めて開催された地域版認知症サポーターステップアップ研修を本年度も 10 月にケアビレッジ朝倉にて開催。認知症サポーター修了生を対象に更に認知症に関する知識を深めていただけるよう高知市健康増進課に協力する形で取り組んだ。旭地区でもステップアップ研修開催が 11 月にあり協力をしたが、市の方針で

今後の地域版認知症ステップアップ講座開催については先行き未定。

地域共生社会の取り組みの中で、H30 年度から、旭地区が第 2 層協議体の取り組みのモデル地区に選定されており先進的な活動をしているので、今後の朝倉地区の活動の参考にしたくモデル事業活動の視察や活動参加をしている。旭地区の出張所とは協同で脳卒中当事者の作品展を開催したり自主グループの立ち上げ、活動支援を行っており、情報交換しながら高知市西部地域が活発になる取り組みをしていきたいと考えている。

(2) 総合相談・支援

- ① 地域住民からの相談、各種申請代行依頼、昨年度からの継続ケースのモニタリング、安否確認等、通常業務において訪問を原則に実態把握し支援を行った。把握した情報は、高知市要援護者台帳へ登録しデータ管理・活用を行った。平成 30 年度相談支援述べ回数は 2,091 回であり、年間相談支援実人数は延べ約 870 人（新規：327 人）であった。昨年度に比較し相談支援回数、相談支援実人数、新規相談者全てで増加傾向。出張所が地域へ出向き、相談窓口として啓発活動をしている効果が感じられる。
- ② 独居の認知症のケースや虐待疑い等の支援困難なケースでは、西部地域高齢者支援センターや生活福祉課、高知市社協等の関係機関や地域住民と協力、連携し介護認定申請の代行や結果が出るまでの生活支援、見守り、病院受診等の支援を行った。また、認知症初期集中支援チームや地域ケア会議等も活用し、単独で抱え込まず、対象高齢者の問題解決に結びつくよう複数で協議し対応することを心掛けた。

(3) 研修等

高齢者支援センター担当者連絡会や西部地域高齢者支援センター出張所ブロックの定期会、西部地域居宅ブロック会、地域ケア会議、外部の研修に積極的に参加し、情報収集や知識・技術の向上に努めた。

- ・地域ケア会議：4/23、5/28、6/15、7/23、8/17、9/21、10/19、12/17、1/28、2/15
- ・外部研修：5/22、6/12：H30 年度認知症初期集中チーム勉強会
 - 7/5、6：四国老人福祉施設関係者研究大会
 - 9/13：高知県認知症カフェ交流研修会
 - 9/28：西部地域医療カンファレンス（被災時の現実）
 - 10/15：西部地域多職種連携研修会（共生型サービスについて）
 - 11/17：高齢者向け自動車運転外来の取り組みについて
 - 11/22：マップ作りの手法を用いた災害時避難行動支援者の個別支援計画の策定方法
 - 11/28：高知市高齢者虐待予防研修

7 生活援助員派遣事業（若草）

若草南町の市営住宅内のシルバーハウジングの入居されている方を中心に、日常的な相談や介護の相談、安否の確認等を関係機関と連携をとりながら活動を行ってきた。

（1）活動内容

生活指導・相談	安否の確認	一時的な家事援助	緊急時の対応	関係機関との連絡	その他
34件	1,374件	28件	14件	20件	161件

緊急通報・・・誤作動（14件）

緊急対応（1件） 体調不良の為、病院受診の手配を取る。

8 在宅介護センターわかくさ 総務部門

事業計画に基づき、経営改善と経費削減に努めることができた。しかし、経営改善には課題もあり、安定的な経営へと結びついた事業があるものの、業務の効率化等、改善見直しも必要と考えられる。

災害・防災関係については、夜間想定と昼間想定で「緊急地震速報」を活用し訓練を実施した。訓練時の課題はあるものの、自然災害等に対する危機意識の向上と対応について、改めて確認することができ、継続して実施していきたい。

地域活動として、鶴来巣町内会をはじめ、複数の町内・地域活動への参加を行った。また、納涼祭や居酒屋、餅つき等の施設行事は盛況に終えることができ、隣接する高知市若葉保育園、朝倉第二小学校との交流も行うことができた。

Ⅲ 児童福祉事業

[1] うららか保育園 関連事業

1. うららか保育園

（1）——— 保育の原点を児童憲章におく ———

- ・ 児童は人として尊ばれる

- ・ 児童は社会の一員として重んぜられる
- ・ 児童はよい環境の中で育てられる

基本方針

- ・ 子どもの人権を尊重する保育園

職員一人ひとりが子どもの命を守り育み、一人の人間として認め、毎日の保育を実践する。

- ・ 子どもの最善の利益を考える保育園

子どもの未来を見通し、広い視野で発達の過程を見守り、思いや感動を共有して保育する。

- ・ 子どもと親と保育者が共に育ちあう保育園

育児は「育自」子育ての良きパートナーとして伸びよう。

保育目標

自然に親しみ豊かな心をそだてる

おもいやりのあるやさしい心を育てる

健康で丈夫な身体を育てる

運営目標（保育への心がまえ）

- ①家庭や地域と連携し、子どもが健康で情緒の安定した生活が出来る環境を用意する。
- ②遊びや体験を通じ、将来社会人として自立する土台がしっかり出来るよう、年令に応じた、目標をもち、豊かな人間性を持った子どもを育てる。
- ③一人ひとりの子どもを正しく理解し、心身の発達の良き援助者になれるよう資質の向上に努める。
- ④保護者や地域の人の理解や協力を得ながら園作りが進められるよう、コミュニケーションを大切にする。

（２）取り組み

基本方針、保育目標、保育への心がまえを大事にし、それぞれの部署で役割分担を行い、保育を積み重ねてきた。又高等学校の職場体験学習、県医師会看護専門学校の小児看護実習生の受け入れや地域のイベント・行事への積極的な参加も行い喜ばれた。保護者会も園への行事等の協力だけでなく保護者会主催でバザーを行う等、活発な活動を行い保育園も協力して活動を盛り上げることができた。

- ①適切な役割分担と共に研修や実務による資質向上の充実に努めた。
- ②全職員での会議が取りにくいため、朝の会・午睡時を利用しての報連相会・各部会等を行い、周知や共通理解に努めている。
- ③研修の中で園内公開保育を実施して午後意見交換、討議を行い保育の資質向上に努めた。
- ④月１回給食部会を行い献立や喫食について報告や検討を行い、給食内容の向上につなげる事が出来た。
- ⑤保育部門会を月１回行い本部に保育園の実情を報告する会を持った。

- ⑥身体測定、誕生会、避難訓練、お点前（年長５歳児）、英語で遊ぼう（幼児組）
わくわくタイム（学研教室）年長組は４月から年間３０回
年中組は６月から年間２０回を実施し遊びながら学び様々な経験をする事を大切にしている。

（３）園児入園状況と園児数

定員130名

初日 在籍 入所 承諾 児童 数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計 (4～9月)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計 (10～3月)	合計
	乳児	6	6	6	7	10	10	45	10	10	10	10	10	10	60	105
	1.2歳児	50	50	50	51	52	52	305	52	53	53	52	52	52	314	619
	3歳児	24	24	24	24	24	24	144	24	24	24	24	24	24	144	288
	4.5歳児	63	63	62	62	62	62	374	62	62	62	61	61	61	369	743
	合計	143	143	142	144	148	148	868	148	151	149	147	147	147	887	1755

（４）保育日数

土曜日（7:30～19:00）を希望登園としているので実質休日は日曜・祝日
年末年始(12/30～1/3)である。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
日数	24	24	26	25	26	22	27	24	24	23	23	25	293

２．特別保育事業

（１）延長保育事業（利用人数１８時３０分から１９時）

補助金対象から今は外れている。利用料金のみで集金収益である、月平均２０名ほどの利用である。

（２）一時保育(クローバー)

家庭で育児をしている保護者のリフレッシュタイム、また仕事の都合などで保育を希望する子ども

もたちをお預かりしている。緊急な場合は特別に日数を増やして預かるなどの対応を保育課と相談を行い対応をしている。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	76名	135名	140名	114名	115名	96名	133名	135名	114名	118名	131名	137名
平均利用人数	6名	8名	8名	8名	6名	8名	7名	8名	7名	7名	9名	8名

(3) 子育て支援センター「うららかなかよし広場」

①地域子育て支援センター事業

◎ ひろば型として

- ・子育て親子の交流の場の提供と交流の促進
- ・子育て等に関する相談・援助の実施
- ・地域の子育て関連情報の提供
- ・子育て及び子育て支援に関する講習等の実施

②取り組み

- ・園庭、ホール、保育室を親子の遊び場・ともだち作りの場として提供し、園庭開放や体験入園を積極的に行う。
- ・看護師による毎月の身体測定。感染症等予防についての勉強会。
- ・講師を招き、茶道、スクラップブック制作等を体験する活動を行う。
- ・情報提供や園行事に参加し、保育園の在園児との交流を図る。
- ・助産婦・保健師・栄養士の外部講師を招いての相談会を行う。

③活動内容

- ・毎月「なかよし通信」を発行
- ・育児相談の実施
- ・子育てセミナー実施（月1回）
- ・給食試食会（月1回）

育児講座等の実施

開催日	講座名	開催日	講座名
5月8日	お点前	8月8日	救急救命士「救急法」
7月19日	「は・は・歯のはなし」	7月8月10月1月	親子でヨガ
6月・9月	スクラップブック制作	8月22日	ウェルカムフレーム作
4月・2月	助産師「育児相談」	6月20日	ベビーマッサージ
5月・12月	栄養士「離乳食教室」	11月15日	クリスマスリースを作る
4月・10月	保健師「育児相談」	12月6日	しめ縄作り
10月17日	親子運動教室	1月16日	押し花キャンドル作り

- ・毎月の行事・・・給食試食会・エアーランド・お楽しみ会・身体測定

- ・ 保育園行事への参加・・・誕生会・避難訓練・秋の運動会・夕涼み会
クリスマス会・節分集会・ひなまつり集会

④利用状況

☆なかよし広場（月曜～金曜）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開放日数	20	21	21	21	23	17	22	21	19	19	19	20	243
参加延べ人数	116組	113組	118組	134組	120組	121組	142組	145組	126組	117組	129組	161組	1542組

（４）病児、病後児保育事業（ラベンダー）

病時保育室は一室のみであり。同じ病名であれば定員３名まで預かることができる、予約が重なっても病名が違う場合はキャンセル待ちとなる。空きが出ない場合はお断りする利用者も多く見られた。

疾患では、６月に感染性胃腸炎の流行が見られ、その他では急性咽頭炎、喉頭炎、上気道炎等の急性期疾患が多かった。インフルエンザが流行する１２月から３月では園での流行は見られず、利用者数は前年度より低下しているが、全体的には前年度より利用者数の増加が見られた、また、３０年度から新規登録によって利用が増えた状況である。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用数	14	15	25	20	32	22	23	34	22	32	16	17	272

（５）体調不良児対応型病児保育事業（スイトピー）

平成３０年度は、月平均１６名季節の変わり目や季節感染症流行時期には利用が増える、夏季には利用者が減少する。保育中に発熱や下痢等の体調不良となり、保護者に連絡、迎えを要請し連絡後から保護者が迎えに来るまでの間隔離した環境で専門職が安全に見守り保育を実施している。また、保健室の役割もかけており、少し横になり落ち着く子ども等も見ている。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
---	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----	----	----

利用 人数	19	20	21	18	6	24	15	21	11	24	5	7	191
----------	----	----	----	----	---	----	----	----	----	----	---	---	-----

平成30年度体験学習・保育実習等受け入れ状況

学 校 名	月 日	人 数
県医師会看護小児看護実習生	5月15日 ～ 7月6日	48名
南海中学校体験学習	5月14日～5月16日	2名
高知福祉専門学校	9月3日 ～ 9月15日	1名
春野中学校体験学習	10月23日～10月25日	3名
竜馬看護ふくし専門学校	11月 5日～11月17日	1名
高知学園短期大学	11月5日～11月17日	1名

平成30年度 主な行事報告

月 日	行 事 名	月 日	行 事 名
4月 1日(土)	入園式・始園式		
4月 14日(土)	春の親子遠足	11月 4日(日)	春野町文化祭ステージ参
5月 12日(土)	こいのぼり参観日 保護者会	11月25日(日)	南ヶ丘文化祭参加(年中)
6月 9日(土)	あじさい参観日	12月 2日(日)	保護者会バザー
6月 27日(水)	プール開き 神事	11月25日(金)	お店屋さんごっこ
7月 日(土)	夕涼み会	12月14日(金)	お餅つき
7月 22日(土)	南ヶ丘夏祭り参加(幼児組)	12月21日(金)	クリスマス会
7月 27日(金)	年長野外活動(仁淀川)	12月25日(火)	春陽荘お餅つき(年中)
7月 24日(火)	東小学校教員保幼小連携訪	3月15日(金)	防犯教室(幼児組)
9月8日(土)	なかよし参観日	1月17日(木)	マラソン集会
10月 7日(日)	第17回運動会	1月18日(金)	一日入学(年長)
10月 13日(土)	ハビリ地域フェスティバル参	2月 4日(金)	節分集会
	秋の遠足	2月23日(土)	第15回発表会(ピアズテ
10月22日(月)	春野町文化祭開幕行事に	3月 8日(金)	お別れ遠足
	参加	3月23日(土)	第17回卒園式
11月2日(金)			

職 員 の 研 修 状 況

平成30年度の研修状況(報告書作成有)

研 修 名	主催者	研 修 内 容	参加職種	参加人員
乳児(1歳未満児)保育研修	高知市	乳児保育に必要な知識及び技術に関	看護師・保育士	7
保幼小連携教育講座	高知県	課題解決に向けて協議し連携を図る	保育士	1
保育士・幼稚園教員基礎研修	高知県	保育士・幼稚園教員に求められるもの	保育士	1
平成30年度人権研修会	高知市	人権尊重に基づく行動がとれる職員	保育士	8
アレルギー対応研修	高知市	アレルギー児の緊急時の対応等につ	保育士・看護師	4
春野地区人権啓発推進総会	春野町	総会・春野西小学校公開授業	保育士	1
基礎研修Ⅲ期	高知県	専門性を高め自己の保育課題を持つ	保育士	1
主任保育士・幼稚園教頭等の研	高知県	企画力指導力等に関しての経営的資質の育成	保育士	1
運動会実技研修	高知県	うんとこどっこい運動会	保育士	2
子育て支援センタースタッフ研	高知県	地域におけるセンターの取り組みにつ	保育士	2
幼児教育研究協議会	高知県	幼稚園教育要領説明会	保育士	3
救急救命講習会	高知市	事故防止ガイドラインに見る事故対応	保育士	2
特別支援保育者研修会	高知市	特別支援者の基本的な知識を深める	保育士・看護	2
プール衛生管理講習会	高知市	プールの衛生管理について・普通救命Ⅲ講	保育士・看護	2
ミドル保育者研修	高知県	ミドル研修一年次研修	保育士	1
体調不良児対応型連携研修	高知市	担当看護師事務連絡会	看護師	1
所長・園長研修ステージⅡ	高知県	組織マネジメントの実践	園長	1
ティチャーズトレーニング講習	高知県	発達障害児等とのコミュニケーション	保育士	2
特別支援担当保育士研修会	高知市	ちより保育園公開保育・朝倉保育園	保育士	2
保育所給食関係職員研修会	高知市	保育所における給食提供について	調理師	1
発達障害に関するセミナー	高知県	ユニバーサルデザインについて	保育士	3
乳児保育研修	高知県	こどもの感染症・集団生活で気を付け	保育士・看護	3
保育園における衛生管理	高知市	保育所における無理のないアレルギー対応を目	保育士・看護	3
第28回全国病児保育研究大会(香	香川県	病児保育受け入れについてのノウハウ	保育士・看護	2
キャリアアップ研修	高知県	キャリアアップに向けた研修	保育士	7

3. 放課後児童クラブ

- ①活動場所 * 東小学校放課後児童クラブ 東小学校校内
指導員 4 名(支援指導員を含む)
- * 西小学校放課後児童クラブ 西小学校校内第1・第2
指導員8名(支援指導員を含む)
- * 南ヶ丘放課後児童クラブ児童クラブ第 1・第 2
第 1 指導員3名(補助指導員含む)
第 2 指導員 2 名
- ②活動日 月～金 下校時刻より 18時まで 第三土曜 8 時30分より 18時
春・夏・冬休み・振替休校日 8時30分より18 時
- ③運営目標 1. 児童の出欠の確認をし、その日の健康状態を把握する
2. 室内遊びや外遊びの約束事の指導を徹底する
3. おやつの提供・衛生面の指導
4. 宿題、学習援助、
- ④活動報告 指導員がルールについて共通認識を持ち、同じ姿勢で指導を継続することで、
落ち着いて過ごす事ができている。各児童クラブが互いに連絡相談を行い
助け合う事が出来ている。毎月の定例会では情報の交換や看護師による感染
症予防研修などを行っている。

春野東小学校放課後児童クラブ利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
開所 日数	20	22	22	21	22	18	23	22	20	20	20	23	
在籍 者数	51	52	52	54	53	53	51	51	51	52	52	52	
出席 延入 数	75 0	909	90 0	88 4	63 8	71 6	92 1	852	735	781	808	708	

春野西小学校第一放課後児童クラブ利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所 日数	20	22	22	21	22	18	23	22	20	20	19	19

利用 者数	25	23	24	25	25	24	23	22	22	21	22	22
出席 延人数	35 4	37 6	39 1	40 4	32 5	28 4	35 9	357	318	282	342	316

春野西小学校第二放課後児童クラブ利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所 日数	20	22	22	21	22	18	23	22	20	20	20	19
利用 者数	23	23	22	22	21	19	19	19	18	18	18	18
出席 延人数	37 9	44 6	43 1	37 1	28 3	30 3	38 8	384	314	285	322	283

春野南ヶ丘第一放課後児童クラブ利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所 日数	20	22	22	21	22	18	23	22	20	20	20	19
利用 者数	47	47	46	44	44	40	39	34	33	30	30	28
出席 延人数	754	792	766	732	610	545	670	590	501	455	442	287

春野南ヶ丘第二放課後児童クラブ利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所 日数	20	22	22	21	22	18	23	22	20	20	20	19
利用 者数	19	18	17	18	17	14	14	13	13	13	12	12

出席 延人数	32 1	31 3	31 9	29 8	22 9	19 8	25 8	230	206	192	208	187
-----------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	-----	-----	-----	-----	-----

*児童クラブ全体的に児童が減少傾向にあるが、東小学校・西小学校は特別支援の児童が利用しているため指導員数が必要である。

Ⅲ 公益事業

〔１〕 介護福祉士養成施設 関連

1 平成福祉専門学校

総括

本年度の介護福祉士国家試験受験率は97%、合格率は81.3%であった。厚生労働省の報告による介護福祉士養成施設在籍者の国家試験合格率は83.7%となっている。介護福祉士国家試験100%合格をめざし、模擬試験の実施、特別講座を含む国家試験対策を時間割に組み込み取り組んだ。この結果から、学生への動機づけを含め受験対策の工夫と強化が課題と分析する。今後も、受験生全員合格をめざし取り組みたい。

学習指導について、教員は学生の授業評価の結果を教育内容や指導方法に反映するよう努めた。授業展開においては、グループワークやデモンストレーション等を取り入れ、学生が主体的に授業に参加し、課題解決力、自発的発言力を養うための授業形態を取り入れた。学生の個性により、学生個々にどのような効果、成長があったかが不明瞭なため、グループワーク実施後に個別の学習定着状況を確認するようにしたい。

施設併設の環境を生かした演習授業（音楽、コミュニケーション技術、介護過程）は、教育効果を高めることができている。

ボランティア活動への積極的参加は、地理的、移動手段の問題から、一部の学生にとどまっている。学生自らが活動範囲を広げることができるようなボランティア活動参加システムを構築する。

学生の生活・学習指導は、教職員で学生個々の情報を共有し、一貫性を持ってあたった。また、違学年との交流、学習の機会を増やすことでコミュニケーション力や自己発信力の向上、共和・協調性の養成に努めた。

本校の認知度は、学内外のイベントへの参加や初任者研修、実務者研修をはじめ、小・中・高等学校での福祉授業や説明会により高まっていると感じる。それを通して入学に繋がるケースもあった。

体験入学では、学生がスタッフとして主体性、自主性を持って企画に携わることから思い込めて参加者と触れ合うことから、学生と参加者の距離が近くなりリピートの参加者も多い。

全国的に、介護福祉士養成校の入学者の激減は深刻な問題であり、県外では、外国人留学生の入学が現実的となっている。その中で、本校の入学定員充足率は70%であり、一目をおかれている。しかし、少子高齢化に伴う高校生数、生産人口の減少により学生募集は、ますます厳しくなると危惧する。

今後も、行政や関連機関との連携をより一層強固にし、介護の魅力を発信すると共に介護福祉士養成校での学びの重要性を広めていきたい。

①教務課

非常勤講師との授業調整は、スムーズにできたが、時間割作成やイベントの緻密な計画の遅延から、他部署に影響を及ぼすことがあった。早々の時間割作成、計画の立案に努め、教員間、他部署との連携をはかる。

学習指導面では、学生が興味関心を持って学ぶことができるよう、教科間の連携をはかると共に、個人、グループワーク等を通して学生が主体的に学習できるよう努めた。中でも、学習習得の個人差に対して、個別指導などを実施したが、学生自身の意識が低く、受動的な実施となった。

国家試験対策は、4月より時間割上に「国家試験対策」の時間を設定し、定期的に模擬試験（外部委託を含む）を実施した。さらに今年度は、専門職による特別講座などを実施した。国家試験の問題は、その年々、出題傾向が変化する。よって、多様な角度から学習できるよう教員の教養、指導力の向上に努める必要がある。

介護福祉実習関係では、「実習施設打ち合わせ会」を年2回実施するとともに、実習巡回において実習指導者との情報の共有、連絡・調整に努めた。学生数の減少、移動手段の確保や地理的条件の問題から、実習依頼先が特定の施設に偏っている。実習配置の有無にかかわらず、施設に学校教育に関心を持ってもらえるよう、打ち合わせ会のあり方を検討していきたい。

在宅実習は、事業廃止の事業所があり実習施設が減少している。今後、学びを共有し深めるためにも、在宅実習施設の拡充をはかりたい。

学籍管理は、管理ソフトにより安全で能率的にできている。

学生の動向については、他分野への進路変更などによる退学者が発生したが、学生間の交流や教職員の支援により減少している。

校友会活動は、現在、現実的に停止状態にある。卒業生と在校生との交流や各種イベントの協働開催などの実施に向けて、組織体制を見直す。なお、本校は、卒業生の来校が頻繁にある。卒業生が母校に来やすい環境を維持し、情報交換に努めたい。

②学生課

生活指導においては、学生の特性を踏まえた個別指導を、教員間の情報共有をはかり実施した。必要に応じて、家族も交え面談も行った。

交通マナーにおいて、違法駐車やスピードの出し過ぎ等があり、交通マナー順守が習慣化できるよう指導体制を構築する必要がある。

美化活動では、校内清掃は、学年を隔てた縦割りグループの編成により、学生間の協調と連携をはかることができ、効率的に清掃活動を実施することができた。

学生の健康管理については、学校保健安全法に基づき健康診断等を実施した。また、介護福祉実習時の感染予防として、便検査、インフルエンザ予防接種を実施した。

福祉施設のボランティア活動への積極的参加を、年間通じて呼びかけ、見聞を広げ自己研鑽に励むよう指導した。事業所や団体からの、ボランティア学生の評価はおおむね好評であった。課題は、地理的な理由から、参加施設、活動学生の偏りである。

学生自治会は、主体的に、学内行事を企画・運営することができた。特に、学園祭は、実習ならびに近隣施設、団体、地域住民に呼びかけ盛会であった。その様子はマスメディアを通じて地域に発信できた。他、国際ソロプチミストよさこい高知の活動、交通安全運動、点字図書寄贈など、地域に密着した活動にも積極的に参加できた。先輩の活動を後輩が引き継がれている。今後も維持していきたい。

学生数

月 学年	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年生	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	35	35
2年生	33	33	33	32	32	32	32	32	32	32	32	32
留年生	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

卒業生就職先

種別	人数
介護老人福祉施設	22
介護老人保健施設	1
自律支援施設	1
居宅サービス関連事業所	5
社会福祉協議会	1
医療機関	1
未就職	1
計	32

③業務推進課

実践目標

- ・ 学生募集の成功
- ・ 体験入学参加者数の増加
- ・ 福祉教育及び説明会レベルの向上

高校には、高知県内を中心に愛媛県南部も加え、延べ 215 回訪問して、体験入学への参加周知や奨学金等の周知を行った。訪問時には、国家資格取得方法の改正や国家資格の移行期間における措置についてなどの広報活動に加えて、説明会や体験入学へ参加してくれた高校生の様子や質問のあった不安なことなど、個別に対応した内容についても報告を行った。

高知県専修学校各種学校連合会の説明会や説明会業者での説明会は、高知県内の高等学校や高知県内、愛媛県南部を含むホテル等で合計 51 回実施し、延べ 192 名の高校生に説明を行った。

福祉教育授業については、高知県内 15 校において述べ 37 回実施した。

体験入学参加者数は、延べ 7 名増加して、体験入学に参加した後、入学した学生数は 7 名増加した。

今後、高校生の人口が減少する中、それに伴い介護福祉を希望する高校生が減少することが予想される現状において、福祉教育及び説明会で会った高校生一人ひとりを大切に、体験入学への誘導、進学へと繋がるよう個別相談などのフォローを丁寧に行う。

④総務

実践目標

- ・ 窓口の丁寧な対応
- ・ 予算管理を的確に行う
- ・ 経費削減の徹底

窓口での接客は素早く丁寧な対応が出来た。

予算管理については、収支共に的確に行えた。日々の会計入力为目标としていたが実行できず、次年度には迅速な処理が出来るよう心掛ける。

経費は備品の購入、自動車の点検等について新業者への変更等、細かく検討し削減することが出来た。水道光熱費については、寮の電気メーターを管理し学生へ節約の指導を随時行うことが出来たが、電気代については今後さらに節約を心掛ける。

今後も厳しくなる状況の中、学生には良い環境で勉強に取り組んでもらうために、施設の環境整備も考えていかなければならない。そのために法人内で情報交換を行い、業者の選定や必要経費の検討は更に力を入れて行う。

2.介護実務者研修

平成30年度は昨年（初年度）に比べて受講者が増え、63名であった。受講生全員が研修を修了した。

3.高校生就職支援事業（介護初任者研修）

本年度も高知県より委託を受け、本事業を実施した。昨年と同じく訪問型研修として春野高校・大方高校・城山高校の3校と集合型研修として本校にて1校の計4校で実施する。計32名が受講し全員修了した。

また、この研修を通して本校への進学者は計4名である。介護への就職者も数名いる事から介護の人材確保としての目的は果たしていると思われるが、受講生の減少も見られるので今後は本事業の受講生の確保も必要である。

IV 各部門会

総務経営部門会

平成30年度は介護用品（オムツや介護用消耗品）の購入先を変更したことで大幅な経費削減が実施できた。購入物品以外の費用（保守や業務委託等）についても委託先の統一化を行い経費の削減を進めていきたい。また、昨年に引き続き会計処理方法の統一を目的に2ヶ月に一度の会計書類調査を実施したことで、仕訳科目の相違や内容の修正等はほぼ無くなってきた。次年度も方法を変えて同様の調査を継続したい。

31年度から本部機能が変更になることにより、総務部門の役割も大きくなると思われるので、効率よく協力できる環境づくりを行っていきたい。

広報部門会

① 広報紙について

テーマは「来た、来たと喜んでもらえるような広報紙」であった。発行頻度は年4回を継続し、記事内容については前年度から変化をかけ、限られたページ数でより多くの情報が掲載できるように事業所の電話番号や住所の記載を簡略化し、各事業所の取り組みや行事報告以外に法人のPRとして「職員の仕事に対する想いの紹介」「職員間の交流」「医療や栄養の観点からご家族やご利用者にも役立つ情報」「地域との関わり」に力を入れて掲載している。また文字の配置や色合いにも変化をかけ高齢者にもより見やすくするために毎回工夫している。各事業所で作成する担当者の作成も簡略化するため手書きのラフで校正したものを業者に渡せるよう業者と検討し作成ができた。

② インターネット（ブログ）事業所の見える化について

事業所内の行事や活動の他、日常の様子を週に1回定期的に更新できることを目標行ったが、全体を通して週1回の更新には至らなかった。現在使用しているブログの更新作業に手間があり思うように操作できないことや更新する担当が限られていることなどが

要因の一つであるが、外部の方から保育園等では保護者からブログを楽しみに見ているといった声や施設見学の際にブログを見て好感が持てる施設と思った等の嬉しい意見もあり継続した更新ができるよう来年度も課題を改善して取り組んでいく。

③ 「地域連携の強化」について

昨年度から取り組んでいる各事業所の地域交流活動を継続して行った。清掃や愛町作業の他、針木地区、鶴来巣地区の夏祭りボランティアには平成福祉専門学校の生徒をはじめ職員も多数参加し地域交流活動を行った。針木夏祭りでは法人のPR活動をさせて頂く場を設けて頂くこともできた。来年度も継続して地域連携が行え、新しい連携の取り組みが実施できるよう取り組んでいく。

研修部門会

前年度の研修内容から、企画立案の見直しから始め昨年度よりも充実した研修ができたと思われる。特に研修部門会では開催回数の見直しを行い、内容の精査したことも良かった。部門会でも前向きな意見が出ていたことで、企画がより充実した内容になり、参加した職員からも良かったとの意見もあった。今後の課題として、人材育成のより充実した企画に取り組んでいく。

給食部門会

各事業所、衛生マニュアルの確認を行い最新の衛生管理ができるように改善を行った。マニュアルを基に各事業所にて調理員を対象とし食中毒研修を実施した。

また年2回実施する見積書も円滑に作成することができた。

さらに災害に備える食事、災害時の対策の外部研修と7月に起こった豪雨での委託業者の対応、各事業所での情報共有をおこなった。食事の提供方法を工夫するために「障害者支援施設 オイコニア」への施設見学に行き、「自分で選択すること」の大切さを実感し、事業所で実施することができた。

危機管理部門会

各事業所の災害対策に対しての意識が高まり、部門会では、災害時の中心的な役割として防災士の取得を検討し配置することもできた。そのことで知識、技術等を高めることを目的に部門会を行うことができた。

また、危機管理として、災害だけでなく、防犯意識も高めるように各事業所での取り組みを再確認、検討を行い、事業所に合わせた危機管理を広めていくことができた。今後も危機管理として、日々の意識を高めるように啓発していく。

保健衛生部門会

①活動内容

- 毎月 保健衛生部門会の開催
- 6月 食中毒・手指の衛生法研修（6/25、6/28）
- 7月 腰痛検査実施報告
- 8月 交流研修（うららか保育園）
- 9月 交流研修（うららか春陽荘）
- 10月 季節感染症研修（10/29、10/30）
交流研修（平成福祉専門学校）
- 11月 インフルエンザ予防接種実施（看護師の協力体制計画）
災害ワーキング（うららか春陽荘、やすらぎの家）
「災害時の衛生・健康管理」「応急処置」
- 1～3月 感染症発生状況報告

② 各事業所の総括

うららか春陽荘

目標

- 「やすらぎの家」と情報交換を行い、新たな業務として加わった外来業務の確立化を図る。
- 積極的に研修に参加し自己研鑽に努め、研修内容を共有してスタッフ全体のスキルアップを目指す。また、法人内看護師にも伝達講習をするなどして、研修内容を共有する。

総括

- 年度始め、スタッフ間で業務の流れの周知を図り、主の担当者を決めた。その上で、他のスタッフの業務を分担し、協力体制をとるように努めた。結果、主担当が不在であっても、他のスタッフがカバーできた。
次年度より、医療機関が朝倉病院から春野うららかクリニックに移行されるため、外来業務内容も変更となる。あらためて、スタッフ間の情報の共有と報告・連絡・相談を図り、スムーズな看護業務の遂行に努めたい。
「やすらぎの家」との情報交換は、保健衛生部門会の中で行ったが、課題や検討事項を提示して行うまでには至らなかった。
- 外部研修には積極的に参加し、伝達講習や記録書類により報告した。次年度は、多職種との連携を念頭に、必要に応じて施設内研修を実施したい。

やすらぎの家

目標

○研修に積極的に参加し、資質向上に努める。

○施設内感染の防止に努める。

総括

○外部・内部の研修への参加は、人員不足から日々の業務を優先した配置により参加が厳しい状態であった。外部研修への参加は、スキルアップをはかると共に、他施設の看護職員と情報交換する場となる。そのことが、利用者の健康管理の向上や介護と医療の連携の構築に繋がると考える。次年度は、研修に参加できるよう勤務体制を見直す。

○今年度、施設内感染症の発症は、1 グループ（インフルエンザ）に留めることができた。感染症対策の研修を行うと共に、発生時はグループ間の交流を断つなど、早期対応が功を奏でたと考える。来年度も、多職種連携により感染予防に努めたい。

わかくさ

目標

○研修への積極的な参加、他施設看護師との情報共有等にて自己研鑽に努め、知識をスタッフへ伝達し、職員のスキルアップを目指す。

総括

○看護医療に特化した研修に参加することは業務上、難しかった。

他施設看護職員が参加した研修内容の伝達を受け、参考になった情報があった。しかし、施設職員に得た情報や知識の伝達には至っていない。

在宅部門は、事業所単位での活動となりがちで、事業所をまたいだ医療面での課題の抽出や情報を共有することは意識を持ち取り組んでいく必要がある。法人の他施設との連携も重要であるが、まずは、施設内での課題の共有、スキルアップへの取り組みが必要と考える。

平成福祉専門学校

目標

○介護福祉士養成において、福祉施設で求められる専門的知識、技術（特に、利用者の変化に気付く観察力・判断力・行動力、症状別のケア、医療的ケアの実践とリスクマネジメント力）醸成のため、施設での研修に積極的に参加し、教員の指導力の向上をはかる。

○医療的ケアの基本研修において、福祉施設の看護師と連携をはかる。

総括

○法人内外の研修に積極的に参加できた。中でも、他の養成校と情報交換できる外部研修では、介護福祉士を取り巻く社会情勢や養成校の現状、目指すべきあり方を情

報収集することができた。その情報を授業に反映し、学生の気づき、視点、マネジメント力向上に努めた。

全国的に、養成校は留学生の受け入れが加速しており、本校も将来的に受け入れ態勢の整備が課題である。風習、言語、宗教、文化、習慣などが異なる学生の心身両面を支援できるよう研修に参加し、他機関との交流を図りたい。

保健衛生委員会での各事業所からの報告等を通じて、現場で求められる知識、必要な技術を把握することができた。特に、季節感染症に対する感染予防、介護職員が実践してよい医行為については、本会議で情報を共有することができた。

○医療的ケアの基本研修では、法人看護師 2 名の派遣により、能率的に実施することができた。

